

Dear. Our Compathy



MOTIFE：絵手紙

CONCEPT

コロナ禍による自粛生活中的「今」だからこそ発見できる、人とのコミュニケーションの中に隠れた豊かさ・価値を見つめ直すための記録伝達物をデザインした。

WHAT WE MADE...

1. 絵手紙文通の記録
2. 動画記録
3. 絵手紙の保管

WHY

コロナ禍によって、私たちの生活は大きく変化した。
1人で自室にこもり過ごす時間が増え、友人・知人と疎遠になる人々も大勢いる。私たち自身、このコロナをきっかけにして外出すること、人との直接的コミュニケーションはめっきり減った。
一方で、私たちはこのコロナ禍においてある種の「良さ」を感じていた。
何か焦燥から逃れられた心地がした。
自粛生活は私たちが普段触れていた、SNSなどの迅速で刹那的コミュニケーションから距離を置くきっかけをもたらしてくれたからである。
自分自身の時間を、余裕を持って過ごすことができるようになった。

この生活を経て感じたことは、「コミュニケーションの空間における人との関わり合い方」である。この空間とは、送り手と受け手の間にある行為や思考が行われる時間的空間を意味する。
コミュニケーションとはどういうことなのか。
その価値はどこにあるのか。
この探求をもって、私たちのデザインは始まった。

HOW

Instagram, Twitterなど、これらSNSによって瞬間的なコミュニケーションが可能であることは、利便性を多く含んでいる。しかし同時に、対話の表面化や匿名性を助長しており、これは、本来の人との関わり方と比べて人間味に欠け、どこか不自然さを感じる。ここに着目し、私たちはアナログの手法に立ち返り、時間と手間をかけたアプローチを行うことで、現代のSNSやメールでは捉え辛いお互いの人間性や、心の機微を汲み取ることができるのではないかと考えた。

そこで、私たちにあったコミュニケーションの取り方を今一度模索したときにたどり着いたのが、絵を介したコミュニケーション、「絵手紙」だ。
何故なら、私たちは言語化できない気持ちや考えを絵として表現することができるからである。

「絵手紙文通」という手法を通し、実際に文通をすることで生まれた、感情・過ごした時間・状況を視覚的に表現する。

TABLE OF CONTENTS

1. Gallery

私たちの文通の記録

2. Visualize

手紙のプロセスを振り返る。事実を読み取る。

3. Future Value

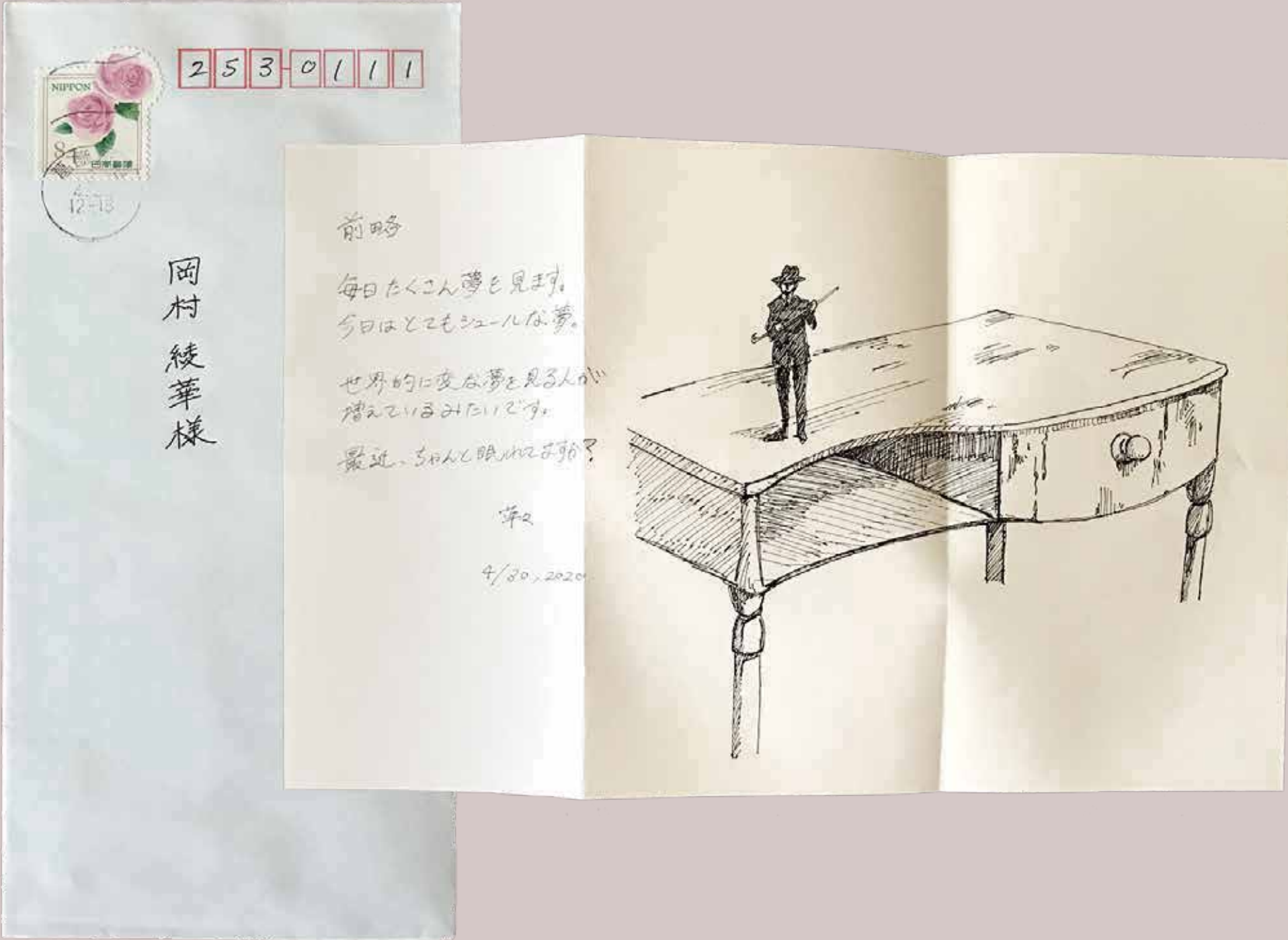
文通を通し私たちが伝えたいこと

1. Gallery

私たちの文通の記録。

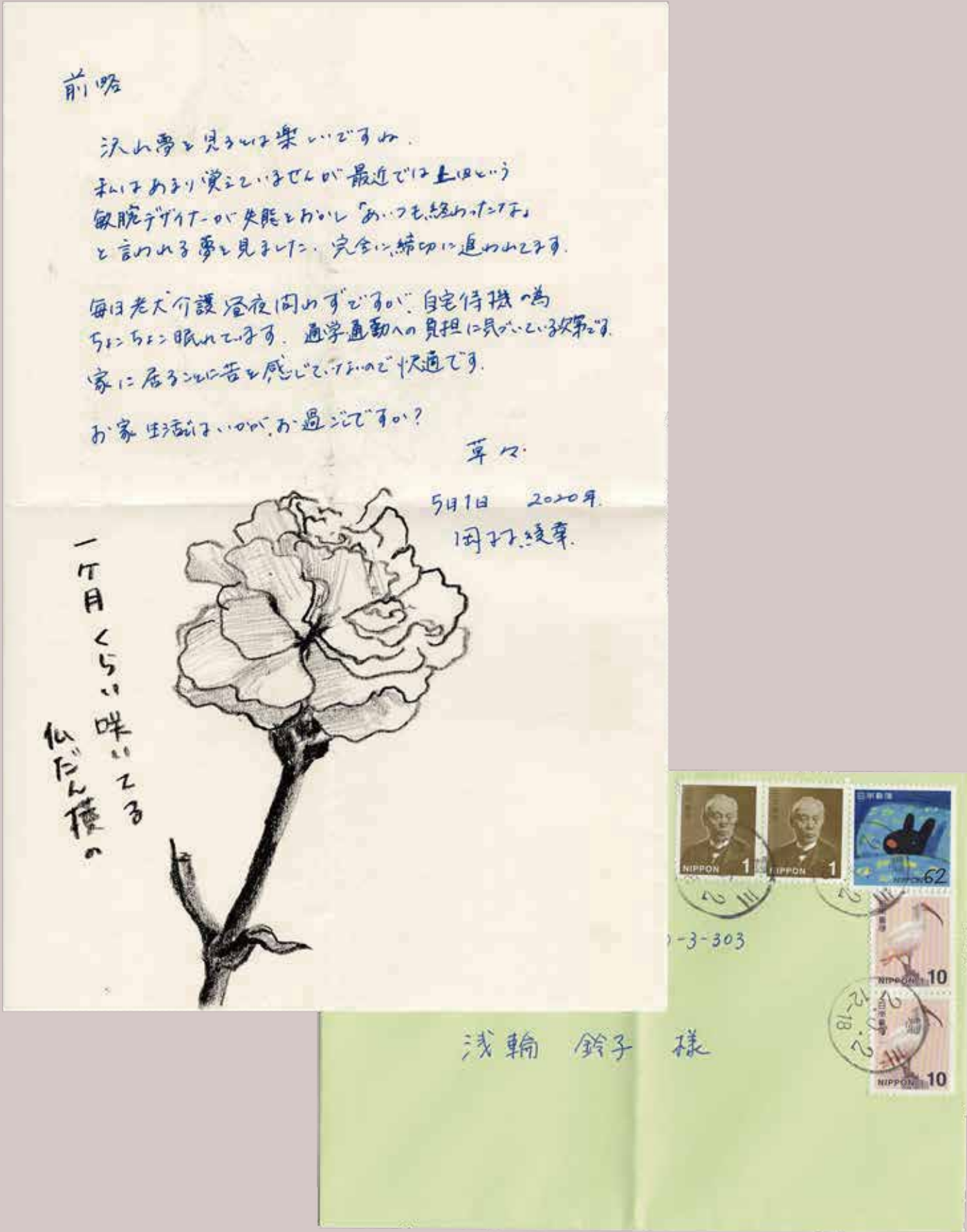
Vol : 1-1

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
Apr 30, 2020 --> May 1, 2020 / Tokyo - Kanagawa



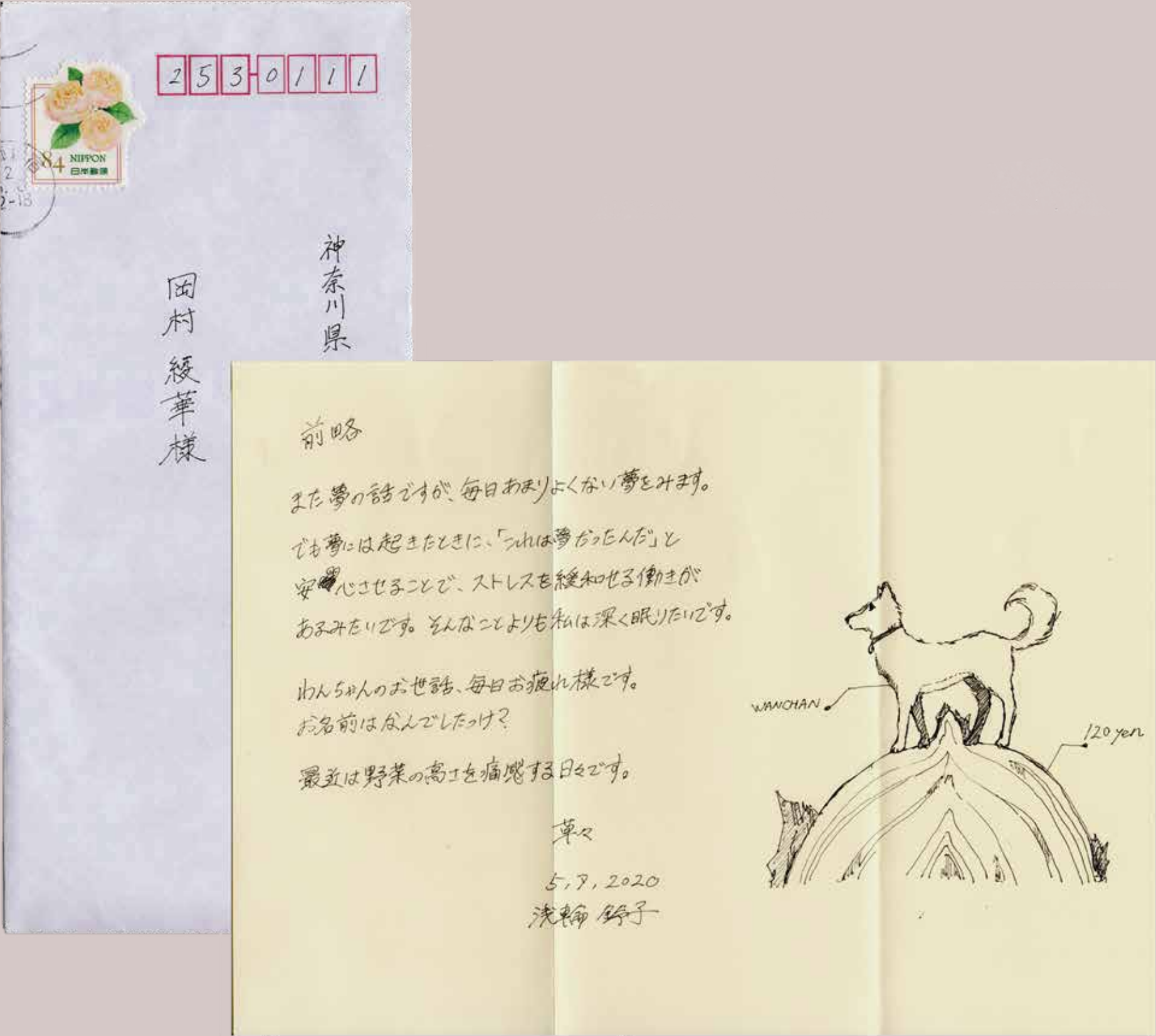
Vol : 1-2

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
Apr 30, 2020 --> May 1, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 2-1

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
May 7, 2020 --> May 10, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 2-2

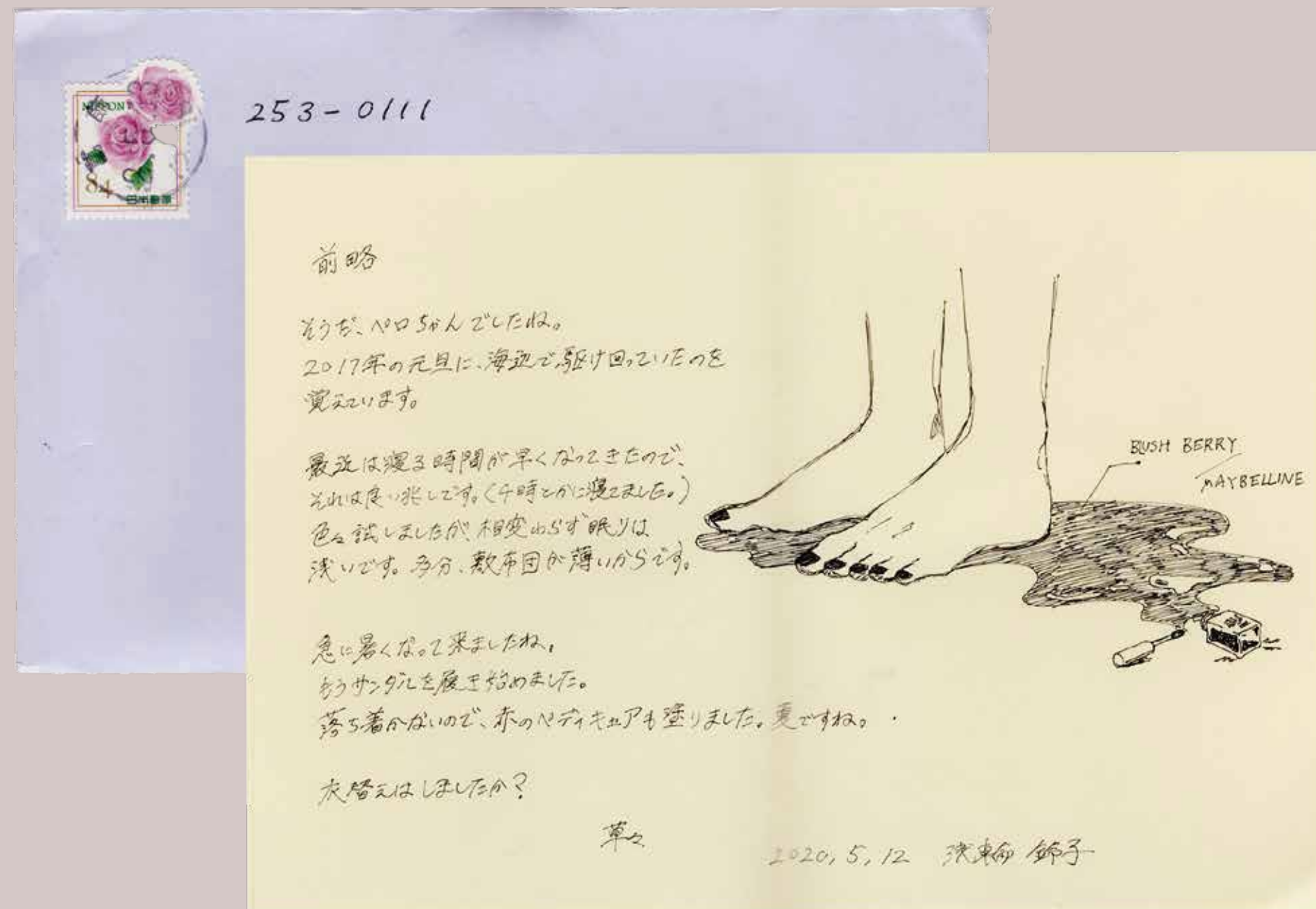
From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
May 7, 2020 --> May 10, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 3-1

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura

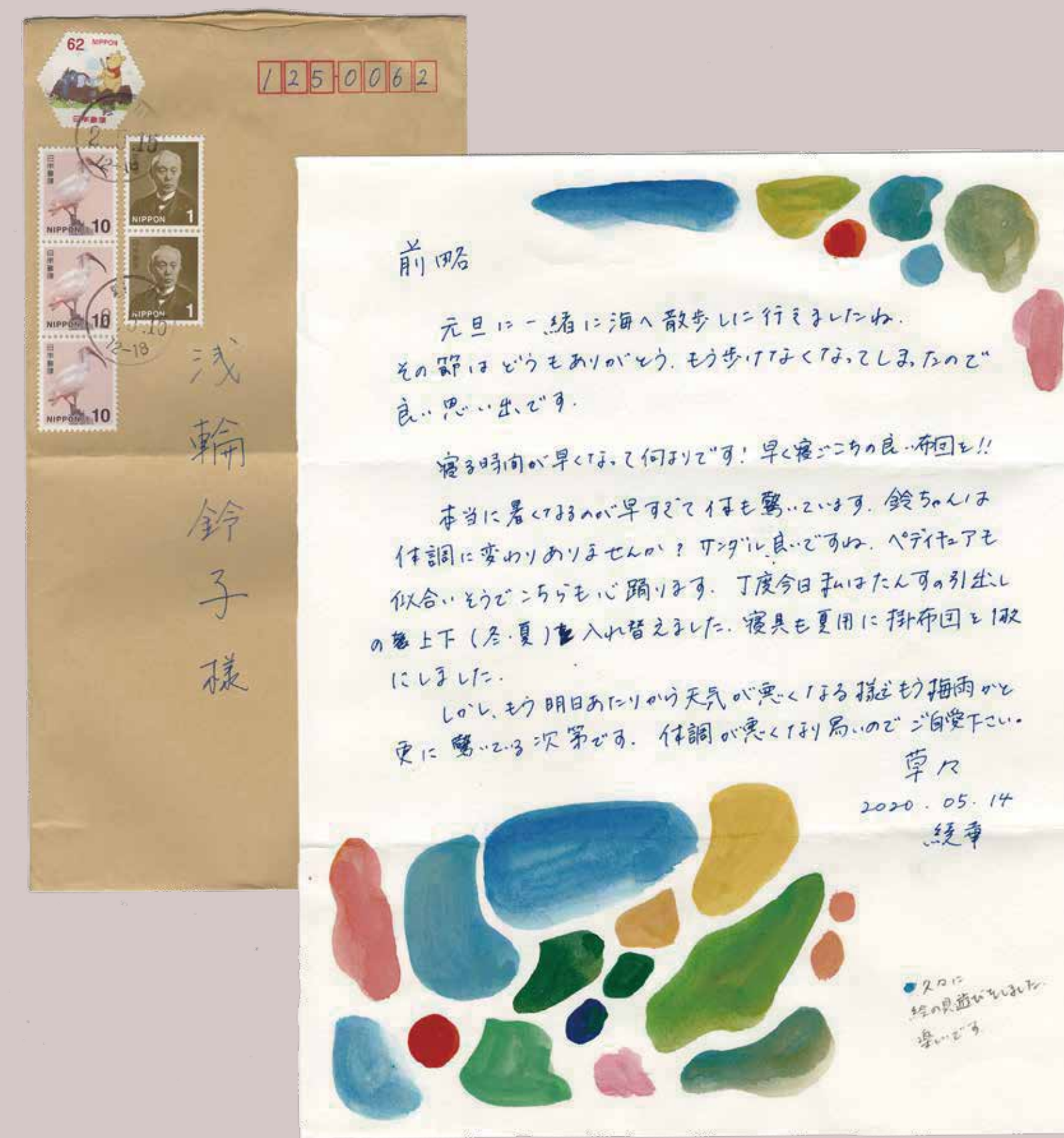
May 12, 2020 -> May 14, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 3-2

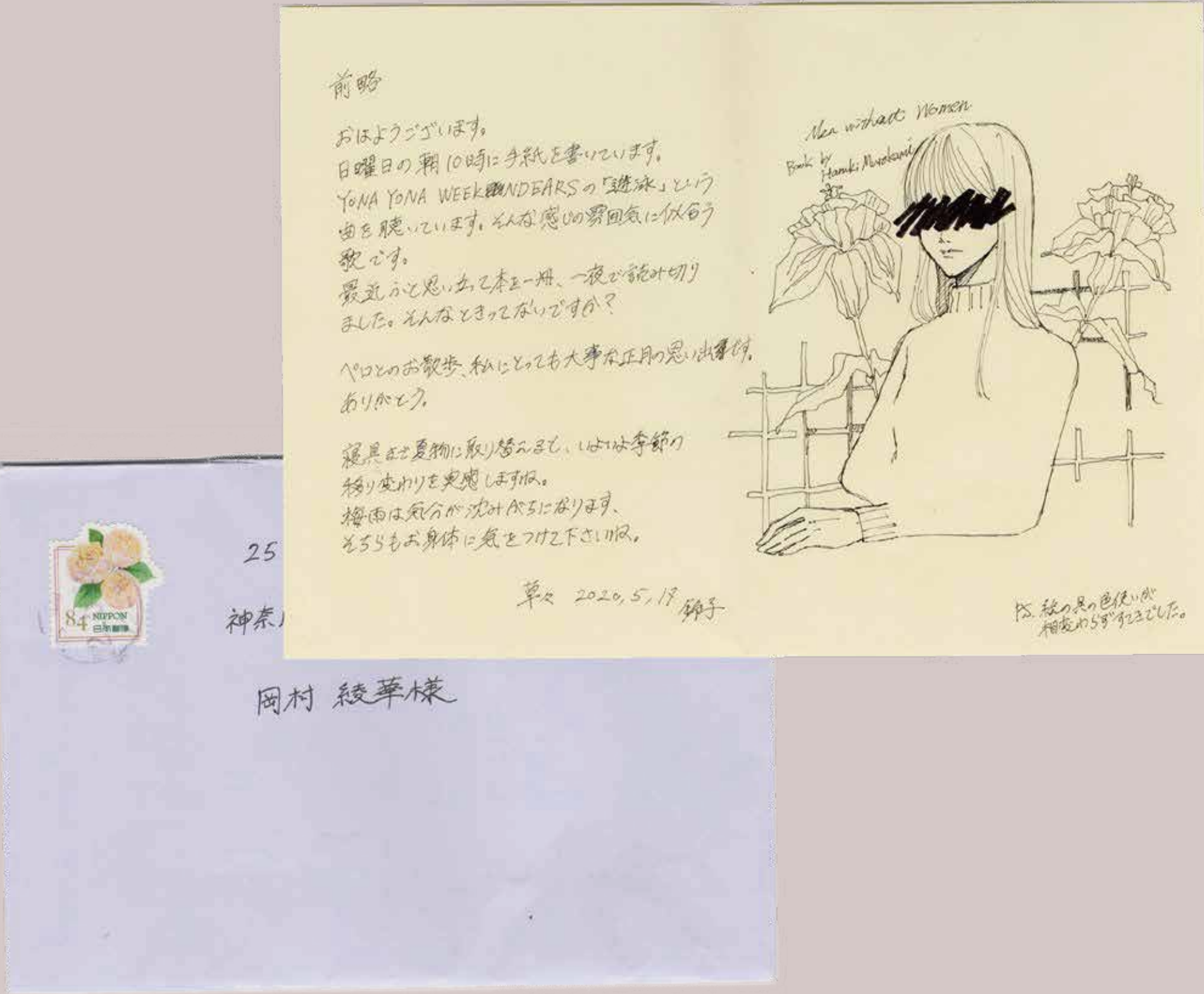
From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura

May 12, 2020 -> May 14, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 4-1

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
May 17, 2020 -> May 18, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 4-2

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
May 12, 2020 -> May 18, 2020 / Tokyo - Kanagawa



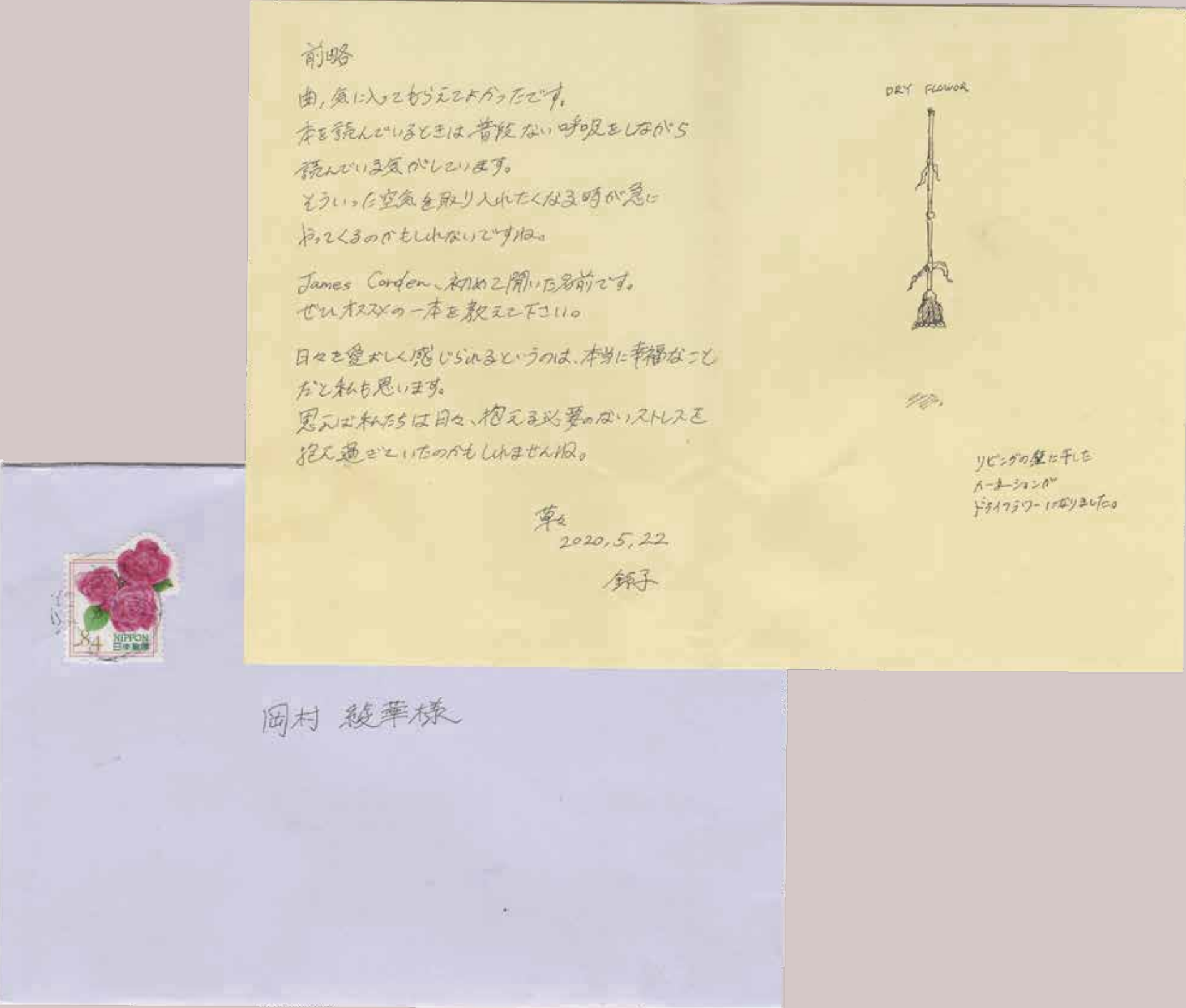
Vol : 5-2

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
May 22, 2020 => May 25, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 5-1

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
May 22, 2020 => May 25, 2020 / Tokyo - Kanagawa



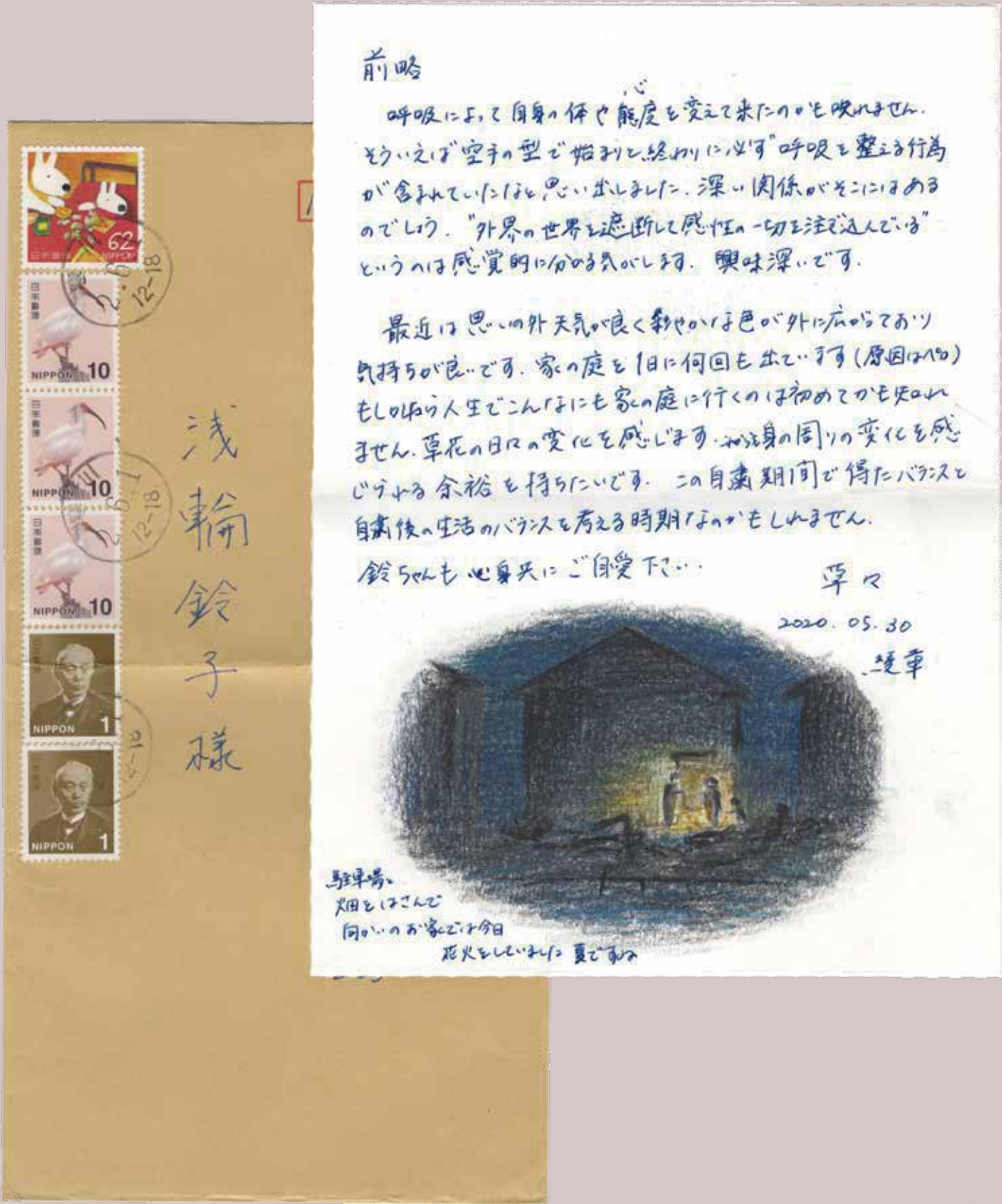
Vol : 6-1

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
May 28, 2020 => May 30, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 6-2

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
May 28, 2020 => May 30, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol: 7-1

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura

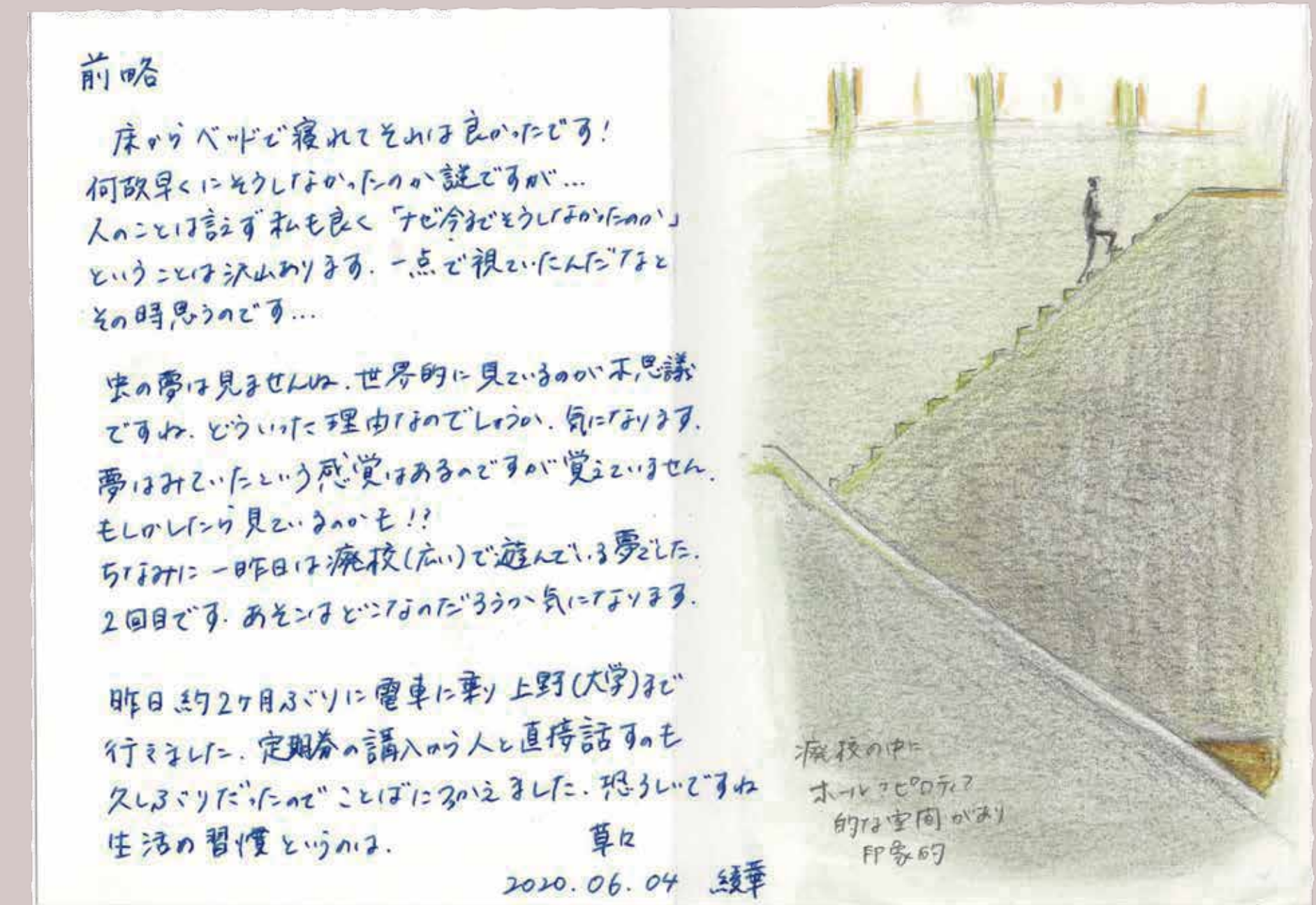
Jun 2, 2020 => Jun 25, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol: 7-2

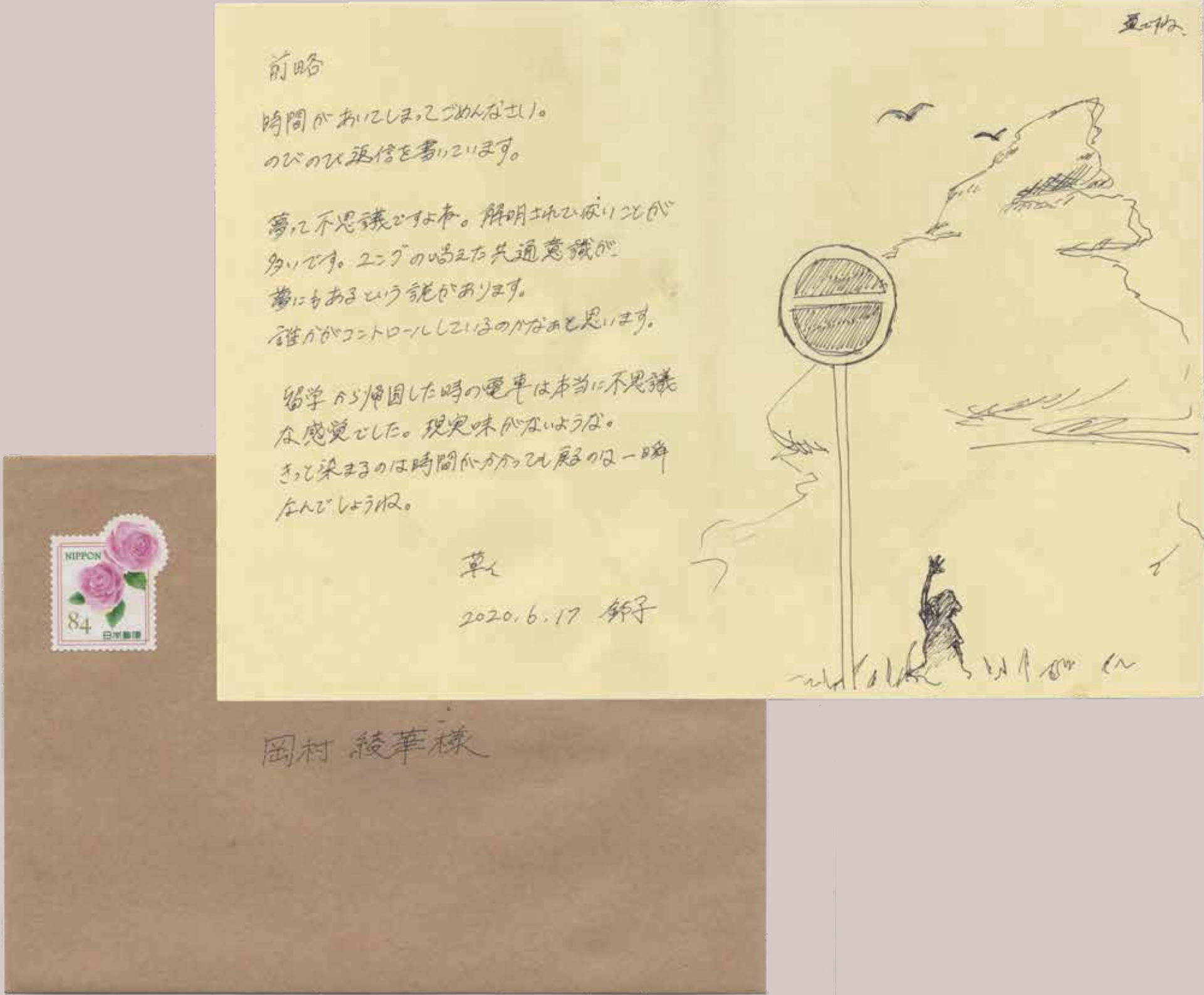
From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura

May 22, 2020 => May 25, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 8-1

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
Jun 17, 2020 => Jun 23, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 8-2

From Suzuko Asawa
To Ayaka Okamura
Jun 17, 2020 => Jun 23, 2020 / Tokyo - Kanagawa



From Mamoru Kodachi
To Ayaka Okamura

May 12, 2020 --> May 16, 2020 / Tokyo - Kanagawa

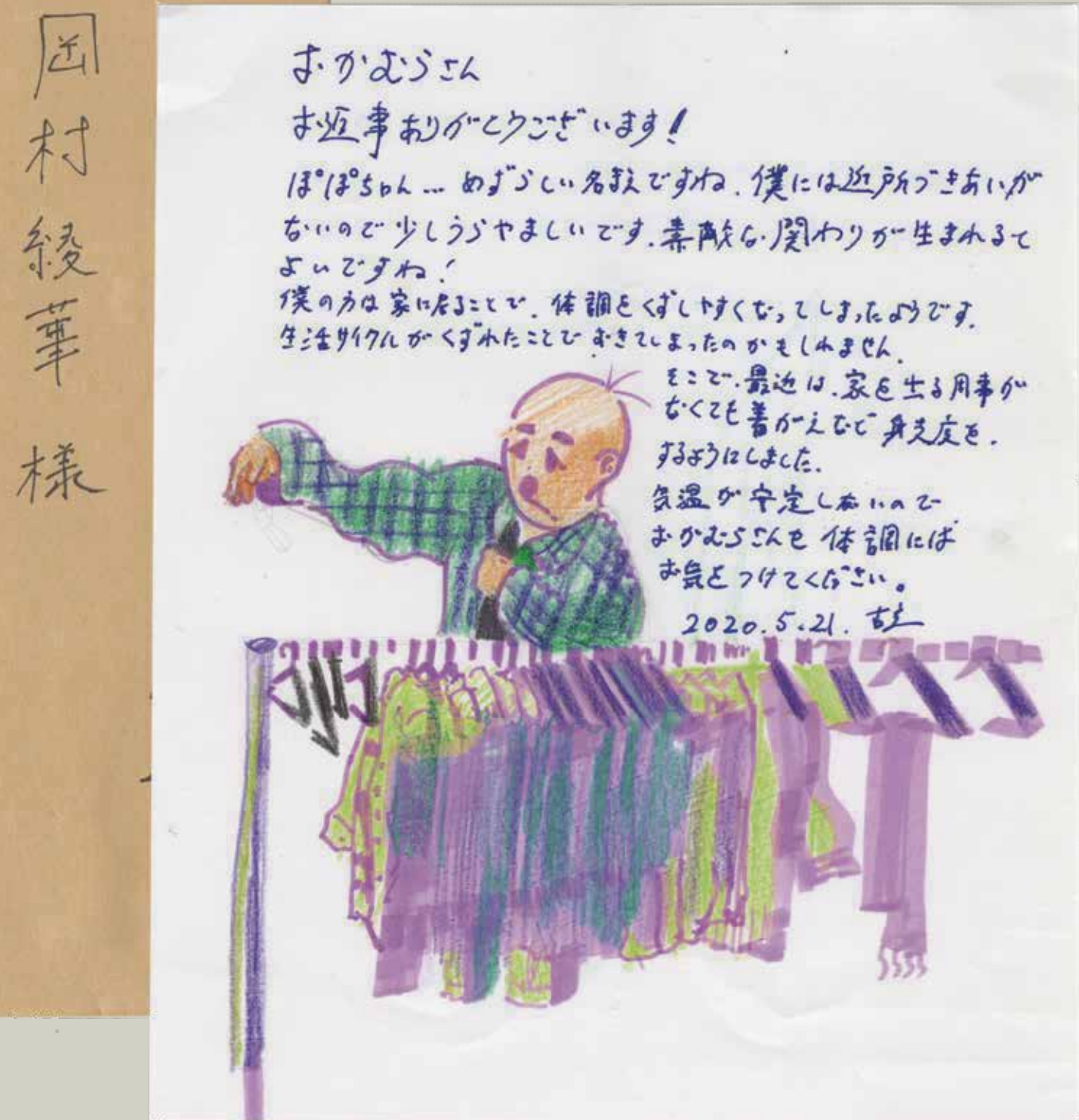


From Mamoru Kodachi
To Ayaka Okamura

May 12, 2020 --> May 16, 2020 / Tokyo - Kanagawa



May 21, 2020 --> May 25, 2020 / Tokyo - Kanagawa



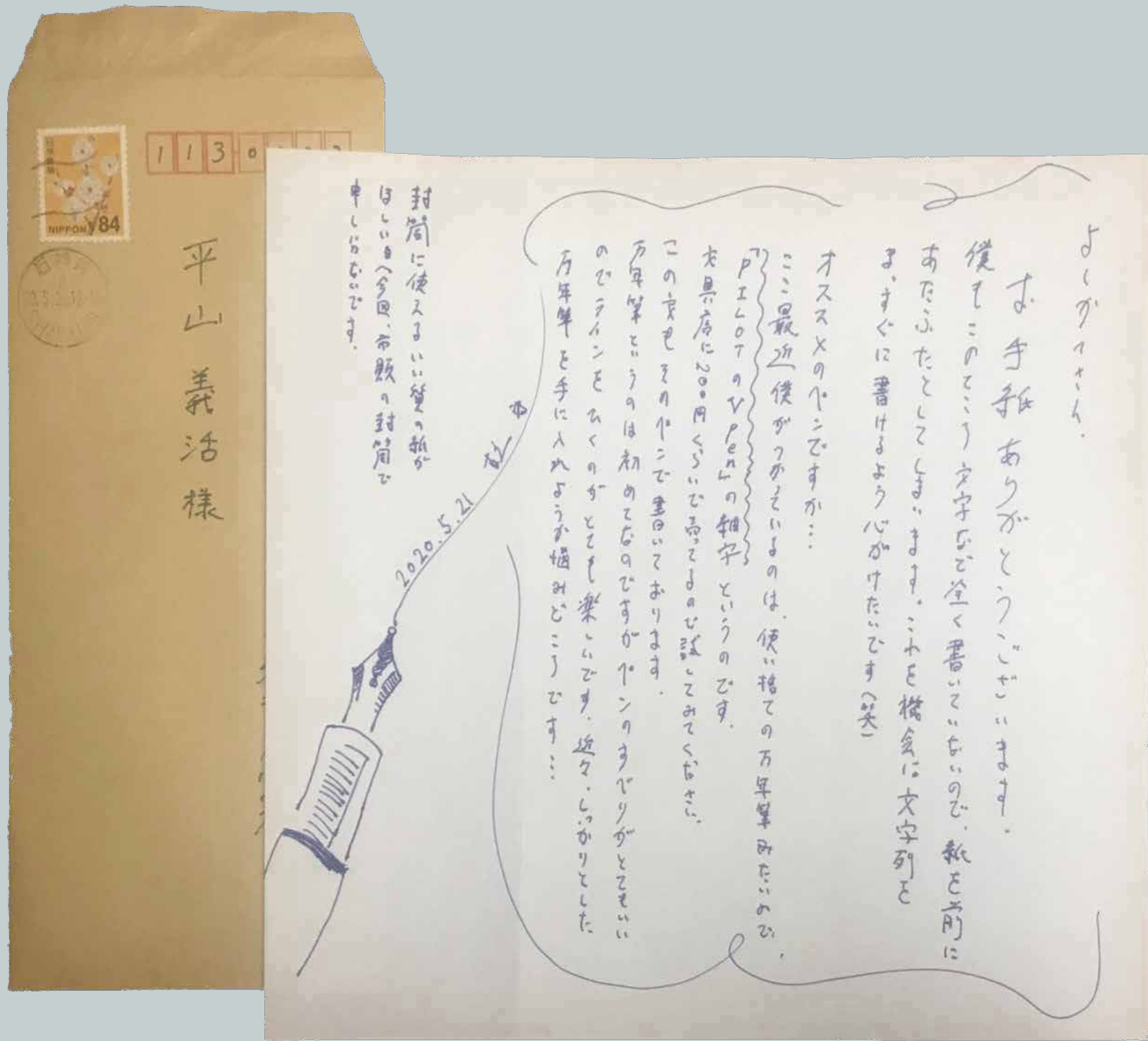
May 21, 2020 --> May 25, 2020 / Tokyo - Kanagawa



Vol : 1-1

From Mamoru Kodachi
To Yoshikatsu Hirayama

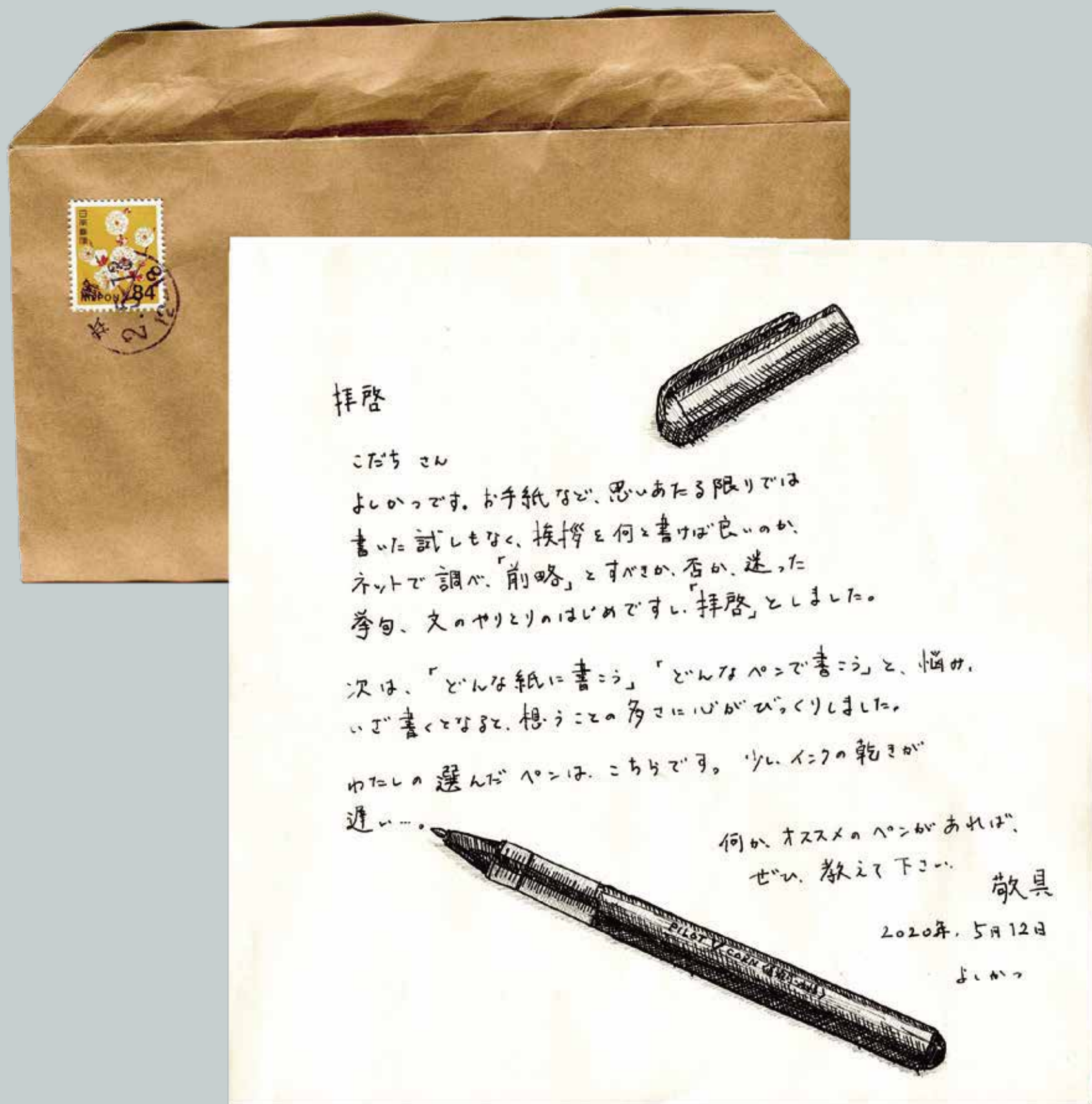
May 21, 2020 -> May 12, 2020 / Nerima, Tokyo - Ueno, Tokyo



Vol : 1-2

From Mamoru Kodachi
To Yoshikatsu Hirayama

May 21, 2020 -> May 12, 2020 / Nerima, Tokyo - Ueno, Tokyo



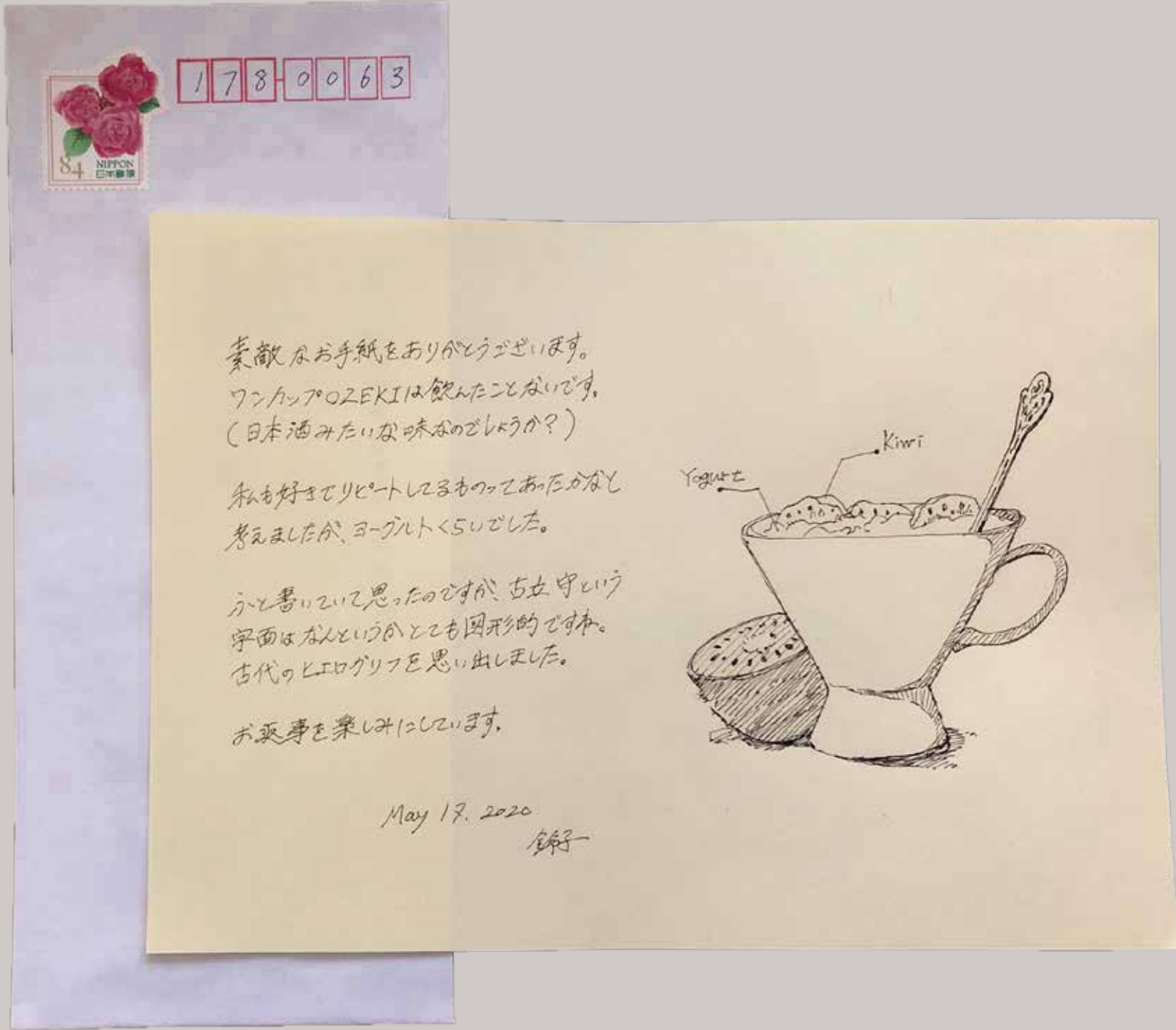
Vol : 1-1

From Mamoru Kodachi
To Suzuko Asawa
May 12, 2020 => May 17, 2020 / Nerima, Tokyo - Katsushika, Tokyo



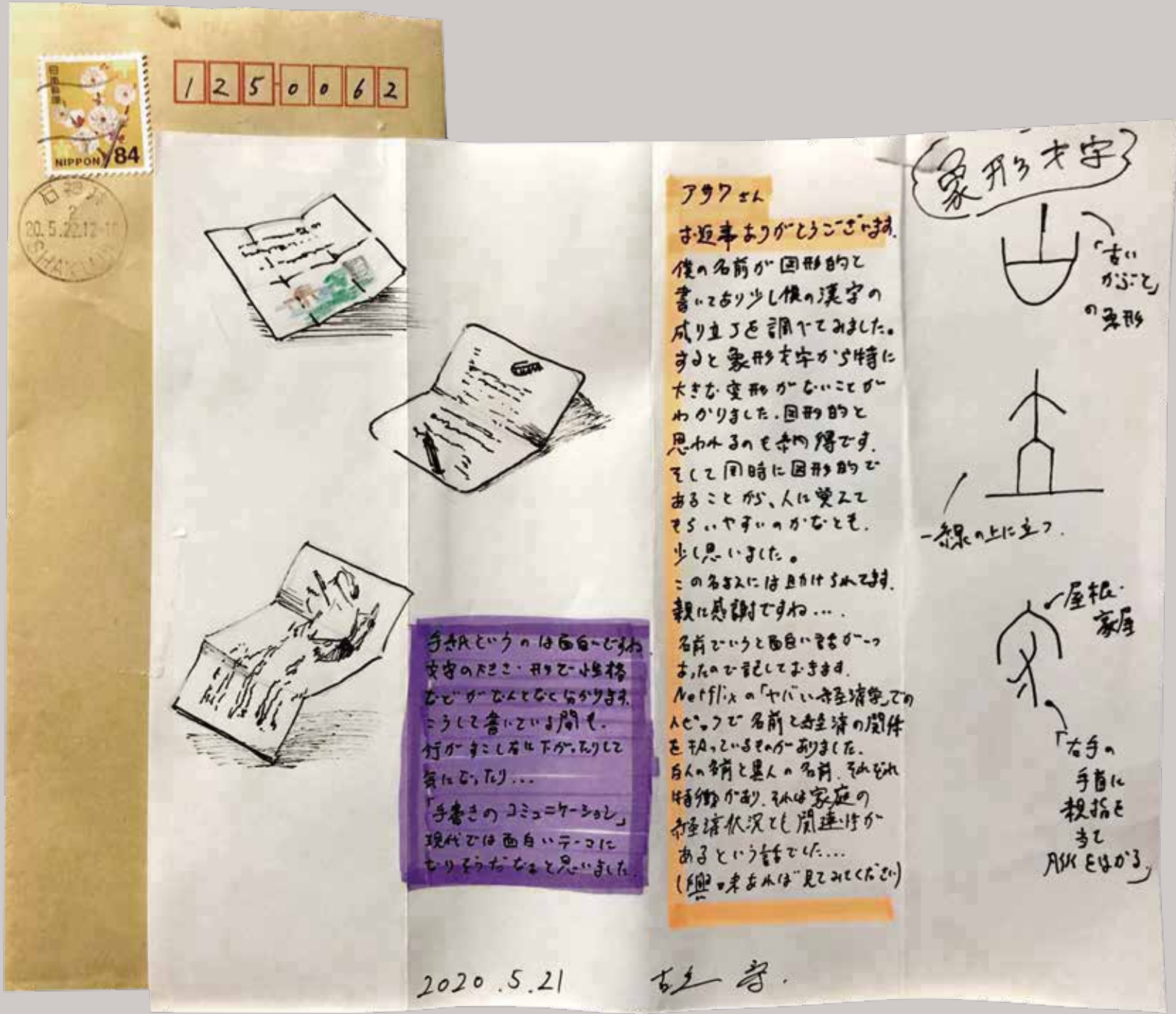
Vol : 1-2

From Mamoru Kodachi
To Suzuko Asawa
May 12, 2020 => May 17, 2020 / Nerima, Tokyo - Katsushika, Tokyo



Vol : 2-1

From Mamoru Kodachi
To Suzuko Asawa
May 21, 2020 => May 23, 2020 / Nerima, Tokyo - Katsushika, Tokyo



Vol : 2-2

From Mamoru Kodachi
To Suzuko Asawa
May 21, 2020 => May 23, 2020 / Nerima, Tokyo - Katsushika, Tokyo



2. Visualize

「手紙を描く」ということはどういうことなのか。

Visualize

ここでは手紙を描く行為を、主に3つのコンセプトから眺めてみる。

主観分析
Subjective analysis



執筆者視点で、「手紙を書く」という行為やそのプロセスを振り返る。

事実

Individual facts



定量化のできる「時間」という事実的側面から、執筆者それぞれが手紙を受け取り投函するまでにかかった※各行為項目に対する時間を記す。加えてその行為が行われた執筆環境も記す。

比較

Comparing the facts



事実を比較し、個人間での時間やその環境、または「手紙」と「メール」という媒体の差異に着目。「手紙を描くこと」の特性を見つめる。

※

1. 手紙の内容を決める時間
2. 作業時間(切手貼るまで)
3. ポスト行くまでの時間
4. 返信を待つ時間

Writers

Relationships

浅輪 鈴子 / Suzuko Asawa

May xx , 2020 --> Okamura / Kanagawa



古立 守 / Mamoru Kodachi

May 21 , 2020 --> Hirayama / Tokyo
Asawa / Tokyo
Okamura / Kanagawa
His friend / Somewhere



平山 義活 / Yoshikatsu Hirayama

May 22 , 2020 --> Kodachi / Tokyo



岡村 綾華 / Ayaka Okamura

May 10 , 2020 --> Asawa / Tokyo

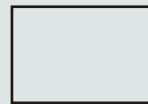




Exchange : 8 times
Start : April 30
End : June 23

岡村綾華
Ayaka Okamura

文通により現れた情報の呼応と、
時間の関わり合いを俯瞰する。



：線とその色
出現と内容の呼応を表している。同色のものは対応している部分を表す。内容が完結しているものは1色1回のみ出現。

Consideration

このやり取りを俯瞰してみると、それぞれに特徴が見える。

:時間

初めはテンポ良く手紙のやり取りを行っていた。しかし18日以降の中盤に差し掛かるとその間隔は少し開け、最後の数日は間隔が開けた。これは6月あたりから自肅が徐々に開けてきたことなどの様々な要因が背景にあると言えるが、その一つに手紙への返信に義務がなくお互いにその返答への迅速さは求めず相手の頃合いの良い時まで待つという余裕を持った共通意識が浸透してきたことが言える。

：絵と文、形態

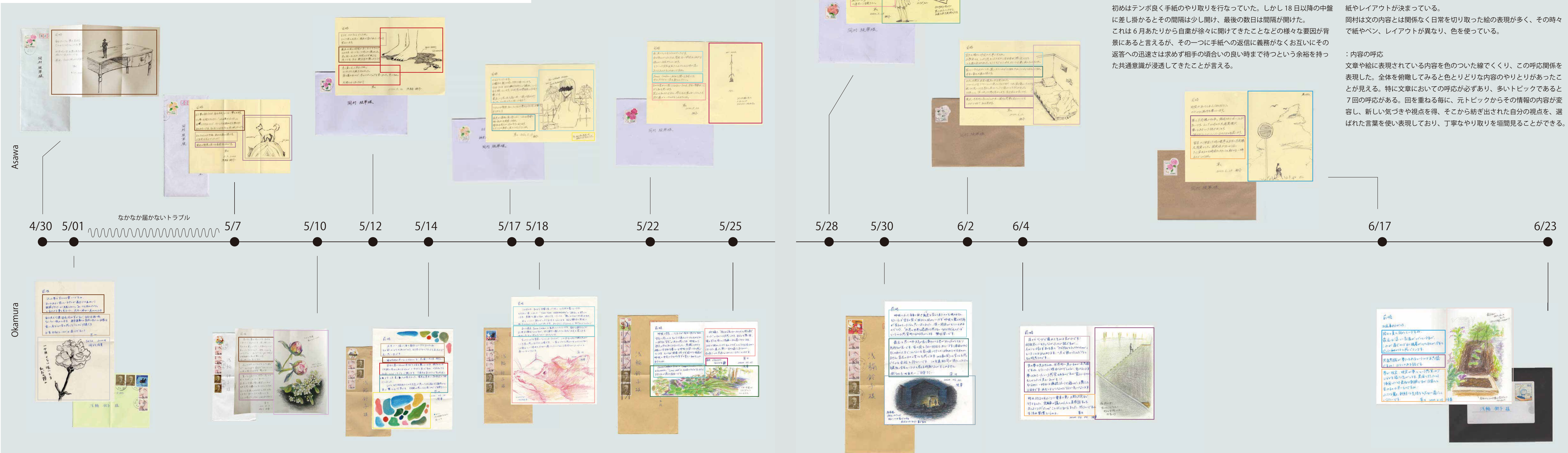
浅輪と岡村の間ではこの要素の表現に差がある。

浅輪は絵と文との内容を呼応させている表現が多い。ペンでの線描きで、紙やレイアウトが決まっている。

岡村は文の内容とは関係なく日常を切り取った絵の表現が多く、その時々で紙やペン、レイアウトが異なり、色を使っている。

：内容の呼応

文章や絵に表現されている内容を色のついた線でくくり、この呼応関係を表現した。全体を俯瞰してみると色とりどりの内容のやりとりがあったことが見える。特に文章においての呼応が必ずあり、多いトピックであるところの呼応がある。回を重ねる毎に、元トピックからその情報の内容が変容し、新しい気づきや視点を得、そこから紡ぎ出された自分の視点を、選ばれた言葉を使い表現してより、丁寧なやり取りを垣間見ることができる。





浅輪鈴子
Suzuko Asawa



Meeting:

岡村綾華
Ayaka Okamura

私たちがデザインの手紙で表現できることは何かを固めていくプロセス。



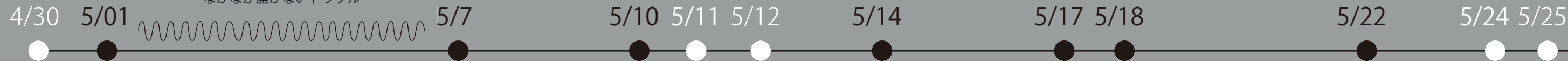
：線とその色
出現と内容の呼応を表している。同色のものは対応している部分を表す。内容が完結しているものは1色1回のみ出現。

Process

私たちは、この絵手紙文通をやりながら、この意味と価値を模索していった。
直感的に感じたこのコロナ禍の中でのある種の良さと、絵手紙という手法がマッチしているという感覚と、これによってその良さを表現することができるのではないかという仮説から始まった。
私たちが感じている「良さ」とは何なのか、
絵手紙はその何を表現しているものなのか、
私たちがデザインしているものは何なのか、
実際の絵手紙のやり取りを楽しみながら、自分たちを省察し、話し、その意義に少しづつ気づき、私たちのデザインは形作られていった。

Asawa

最初のミーティング
コンセプト、やりたいこと、
もやっと思っていることを共有する。



なかなか届かないトラブル

Okamura



手紙のやり取りについて、
どこまでやるのか
どこまでやってもらうのか
話し合う

ゼミにて協力者
(絵手紙交換を行ってくれる人) を募る

自分たちもまだ何をデザインするのかを
わからないでいる状態
とりあえずやってみる

一旦私たちは何をやっているのか
まとめてみる
この絵手紙交換とはどういった価値があるのか
何をデザインしようと思っているのか

ゼミにて FB
をもらう
何をデザインしていると言えるのか？
多視点を持つった伝達方法が欲しい

ゼミでの FB を参考に再び
デザインのコンテンツをまとめ
てみる。
今までの感想を認めていた。
この感想を元に、
この手紙交換を「振り返る」
ことで、再びその時の間隔を
味わっていることに気づく。
ここで、振り返るための保存
方法の必要性に気づく。

再び振り返ってみて、
何を作るのか
何をデザインするのかを
これまでのミーティングで見
つけてきたコンセプトを元に
決めていく。

6/25

改めての
概要確認

6/29

言葉の確認
と吟味

制作物進捗確認

Writer-1

浅輪 鈴子

Suzuko Asawa

May 07, 2020 --> Okamura / Kanagawa

プロフィール Profile



1. 無印文房具が好き。
2. 音楽を聴きながら描くことが好き。
3. 漢字が苦手。
4. 手紙を描くのは精神統一。

作業環境 work environment



浅輪鈴子

Suzuko Asawa

May 7, 2020 --> Ayaka / Kanagawa



HOW TO WRITE

1. レイアウトを考えて、書き出しの「前略」の位置を決める
2. 漢字の書き損じが気になるので、iPhoneで内容を書く
3. 文章を書き写す
4. どんな絵を書くか考えながら文章を書き終える
5. 鉛筆で下書きをする
6. ボールペンでペン入れして完成

WHAT I LISTENED TO A MUSIC

Elastic Afterwords / Kenichiro Nishihara

1. Ecstasy (feat. Pismo)
2. Up All Night (feat. SIRUP)
3. Elastic Afterwords
4. Wonderland (feat. Sam Ock)
5. Walk Out (feat. Michael Kaneko)

MATERIALS

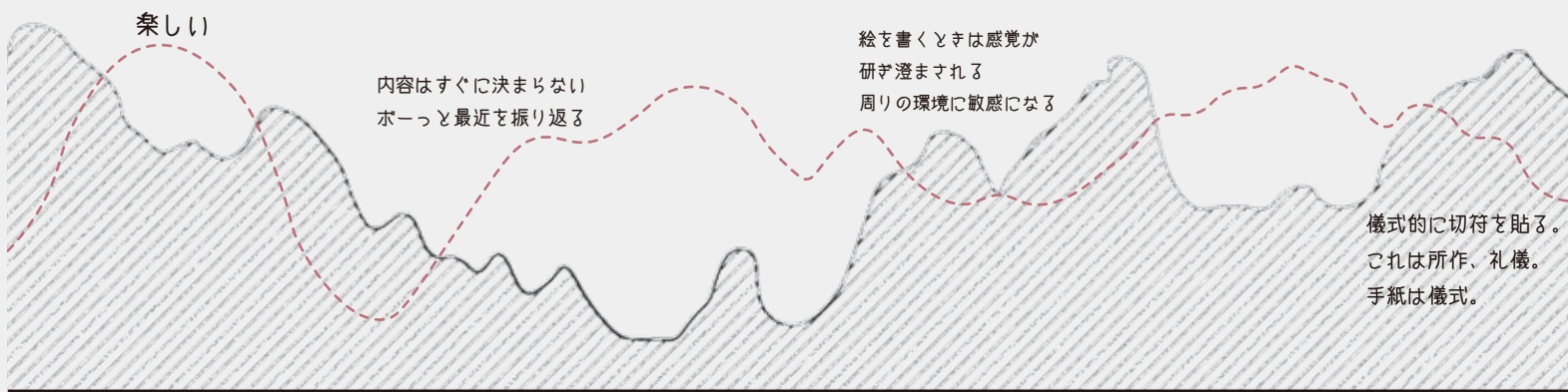
- 中性ゲルインキ六角ボールペン 0.25 黒 / 無印良品
- 油性マーカーツイン 細・黒 / 無印良品
- 鉛筆 ハイユニ 2B / 三菱鉛筆
- 練りゴム イージークリーナー / バニールアート
- レターセット / セリア
- 切手 84円

MAY 7 2020

天気
晴れ▲24度(-2)
▼15度(0)

AM 10:00 AM 10:03 AM 10:20 AM 10:25 AM 10:26 AM 10:26 AM 10:43 AM 10:47
開封 読み終わり 内容を考える 文章転写終わり イラストの下書き開始 下書き終了 書き終わり 封書

音楽再生 iPhoneにて下書き 外の天気気になる 宛名の正しい位置を一度調べる



EMOTIONAL UPS AND DOWNS

CONCENTRATION

Ayaka Okamura
May 10, 2020 --> Asawa /Tokyo

15 min

40 min

20 min

days

1. 最近は尚更ゆっくりとした時間のテンポに心地よさを感じる。
2. 老犬に生活を支配されている。
3. 最近庭に植わってきた植物を観ることが増えた。
4. 色遊び好き。

作業環境 work environment



May 10, 2020 --> Suzuko / Tokyo

Highest point

何を書こう？書いてくれたこと
に返事もしたい新しい話
もしたい。まとめるのが難し
い。また間違えた。

今回は色を使いたいな。
久々に色鉛筆にしよう。

Feeling
Tension

Recieved a letter

Writing a letter

リビングで封を開けた。家族も何気にチラ見して「やっぱセンスいいな」。同感。

わかる

ペロと玉ねぎが描かれていた。そう言えば一緒に元旦、海へペロを連れて行ったな～。覚えていてくれて嬉しい。うちの子凛々しく描かれとる。

ついでにスーパーへ行き、ペロの
ミルク・餌も買った。

黒の入れ方、難しい・・・センス・・・。

昼間写真で撮った最近庭で咲き出した花でも描こう～

Sealed the letter

Going to a post

今回の遠回り

普段の道り

post office

1 通目が向こうへ届くのに 5 日かかった。なかなか遅い。そのため今回はコンビニのポストではなく支店郵便局のポストに投函してきた。いいお散歩。

Writer-3

古立 守

Mamoru Kodachi

May 21, 2020 --> Hirayama / Tokyo

プロフィール Profile



1. 全く知らない世界の知識が見えそうな時が好き。
2. スパイスから作るカレーをかじり始めました。
3. 学びになるかもわからない、ただ絵の具を紙にぶつけ抽象的な form を描くこと好き。
4. 事務関係の仕事は好きじゃない。

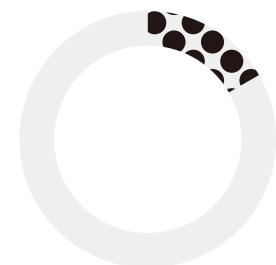
Scrapbox より抜粋

作業環境 work environment



1

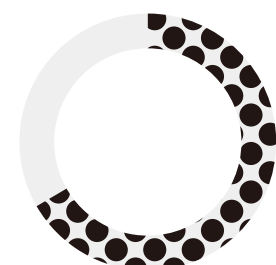
手紙の内容を決める時間
Deciding contents



10 min

2

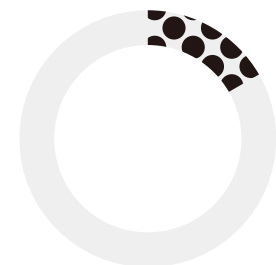
作業時間(切手貼るまで)
Writing time (until
stamps are applied)



40 min

3

ポスト行くまでの時間
Walking time to a post



10 min

4

返信を待つ時間
Waiting time for reply

6

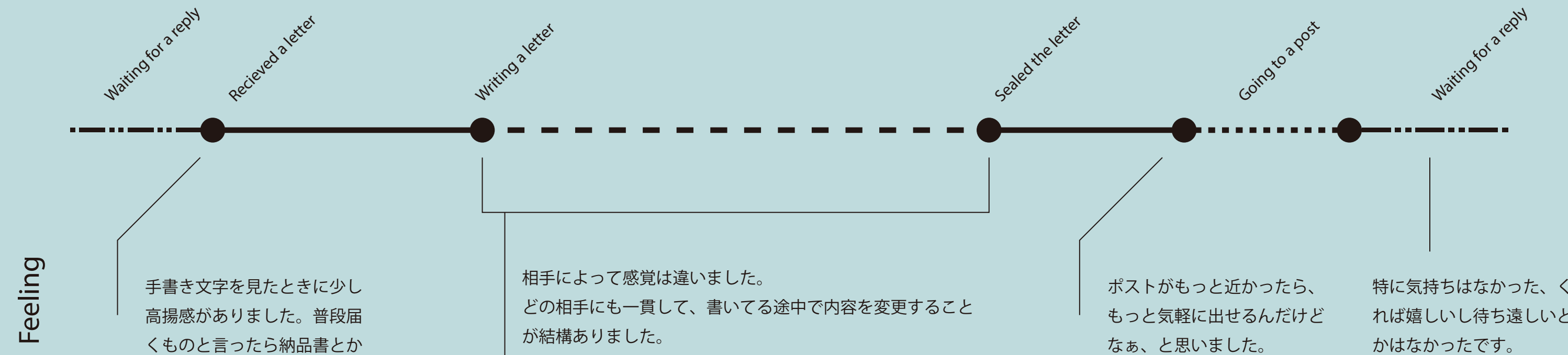
days



古立 守

Mamoru Kodachi

May 12, 2020 --> Kodachi / Tokyo



May 12.21, 2020 --> Asawa / Tokyo	May 12.21, 2020 --> Okamura / Kanagawa	May 21, 2020 --> Hirayama / Tokyo	May XX, 2020 --> His friend / Somewhere
 浅輪さんへは、なんかあいもないことだけど、実験的な会話という雰囲気を感じていました。	 おかむさんには、対面で話しているような雑談チックな感覚でした。	 義勝さんには、丁寧な文体を意識するような感じ。	もう一人長年の友達とやってみました、その人への分が一番長くノリ良くかけた気がします。

「手紙を書く」ということの影響

Before

- ・簡単にできそうだからやってみようかな。
- ・字書くの苦手だけどまあいいかな。

After

- ・自分の字汚いな… (笑)
- ・封筒、もっと綺麗な欲しいな
- ・もっと手軽にできるといいな。

Writer-4

平山 義活

Yoshikatsu Hirayama

May 22, 2020 --> Kodachi / Tokyo

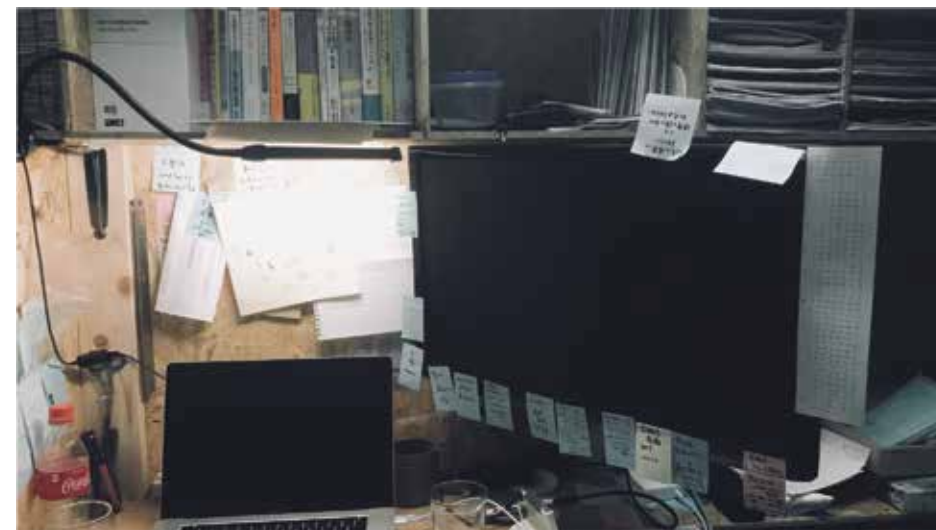
プロフィール Profile



1. コミュニケーションは全部栄養になってる。
2. デンマークか、奈良みたいな、人と人が向かい合って時間の流れがゆっくりな場所で暮らすことが好き。
3. 最近冬眠がしたい。でも世間からおいていかれるのは嫌。葛藤中。
4. 何も活動しない時期は嫌い。

Scrapbox より抜粋

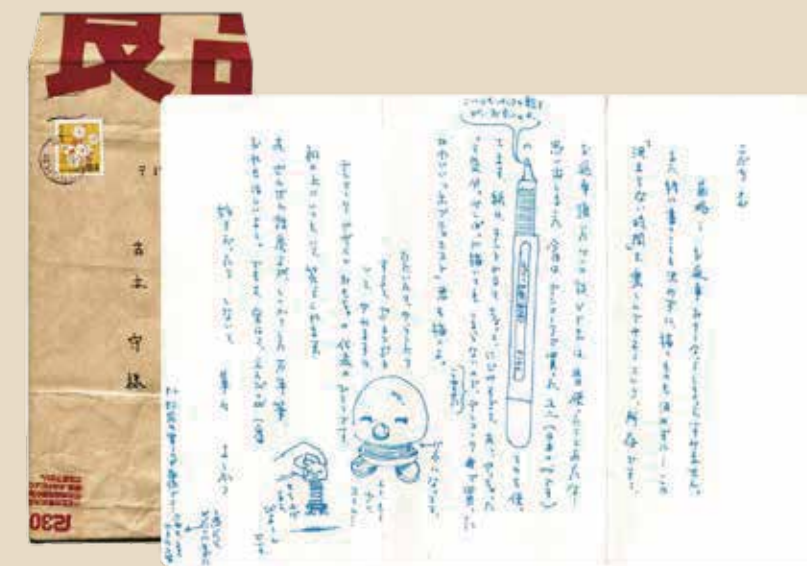
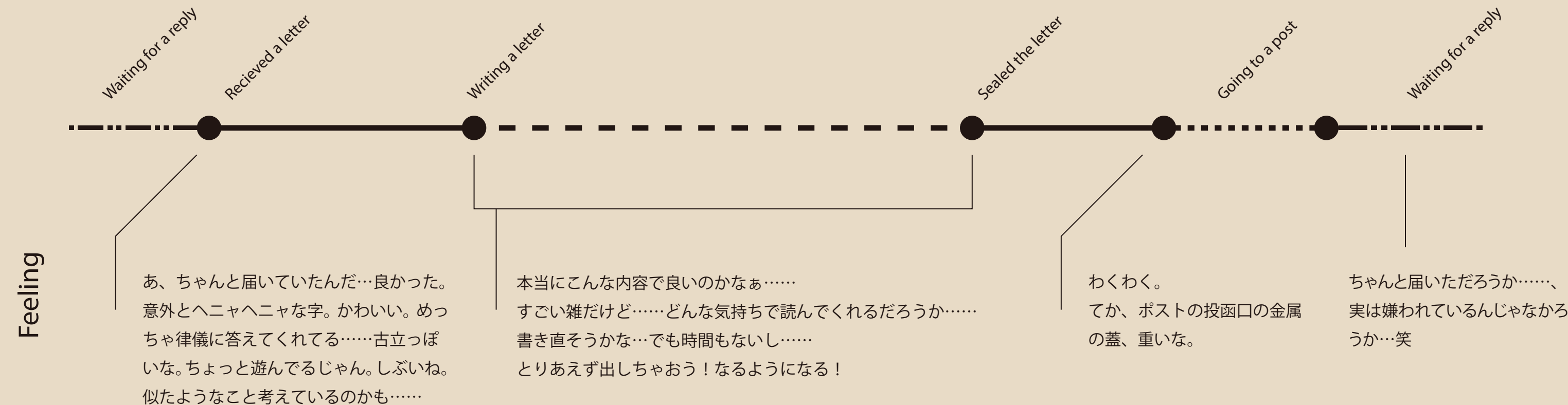
作業環境 work environment



平山義活

Yoshikatsu Hirayama

May 22, 2020 --> Kodachi / Tokyo



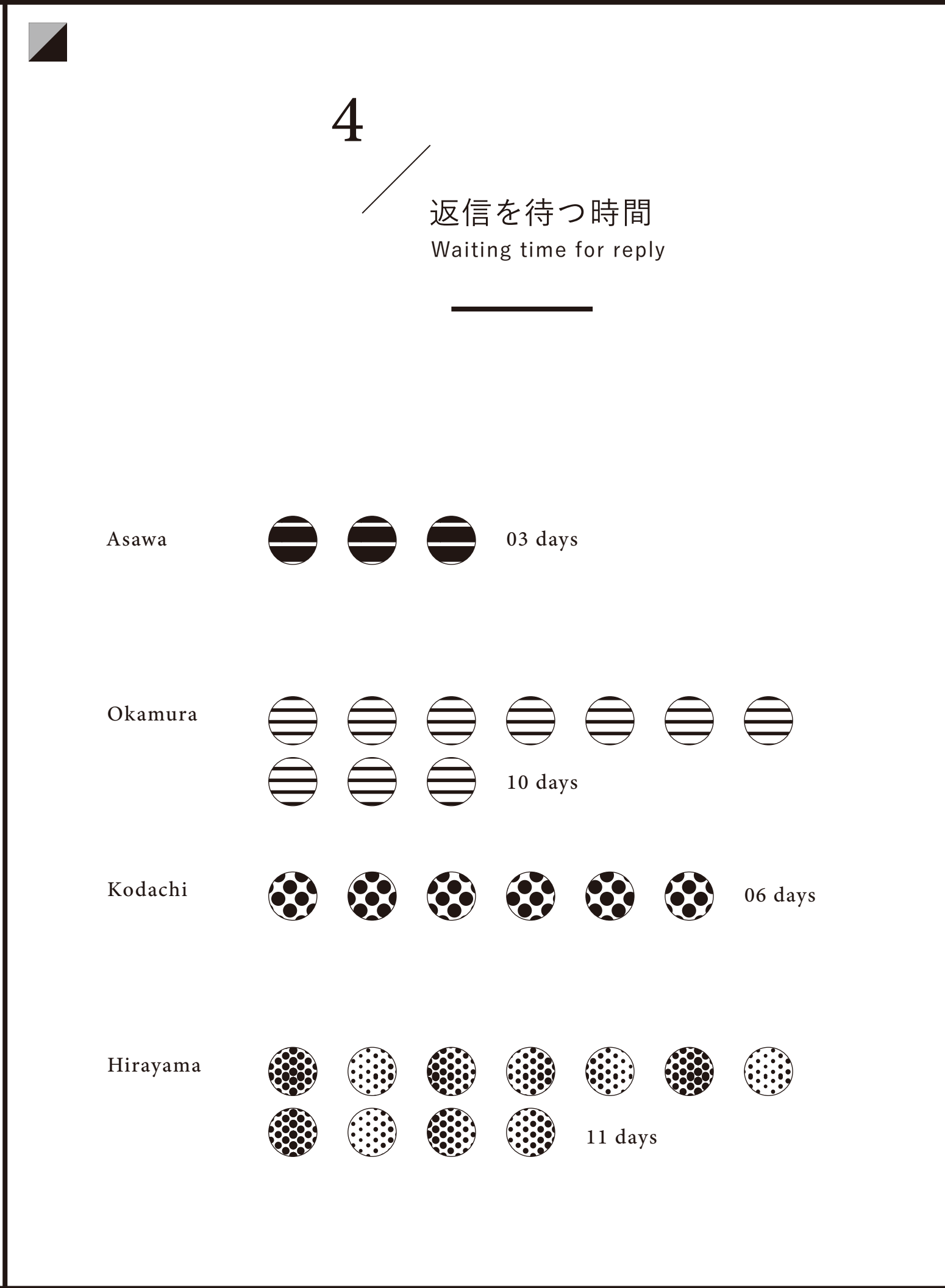
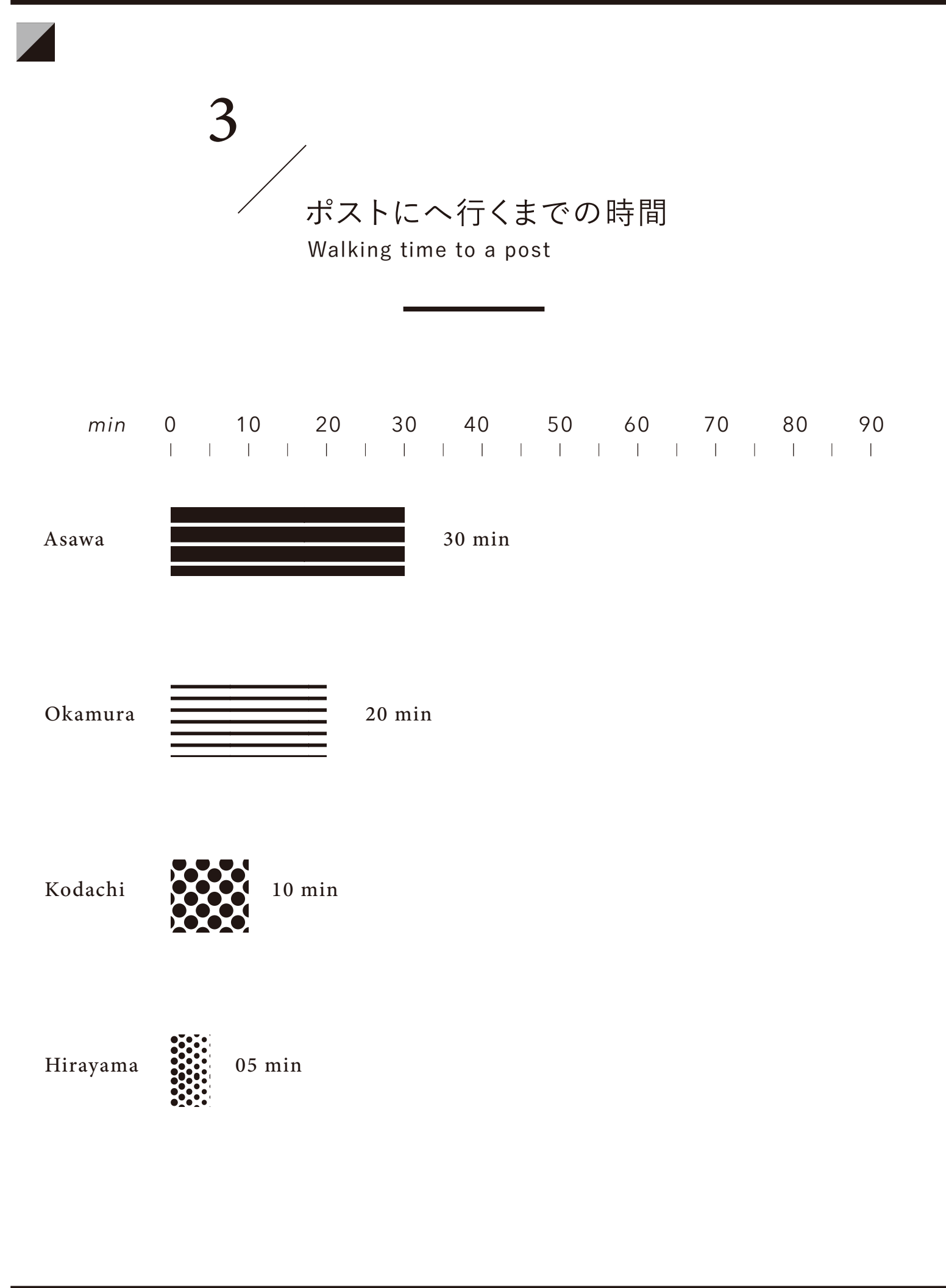
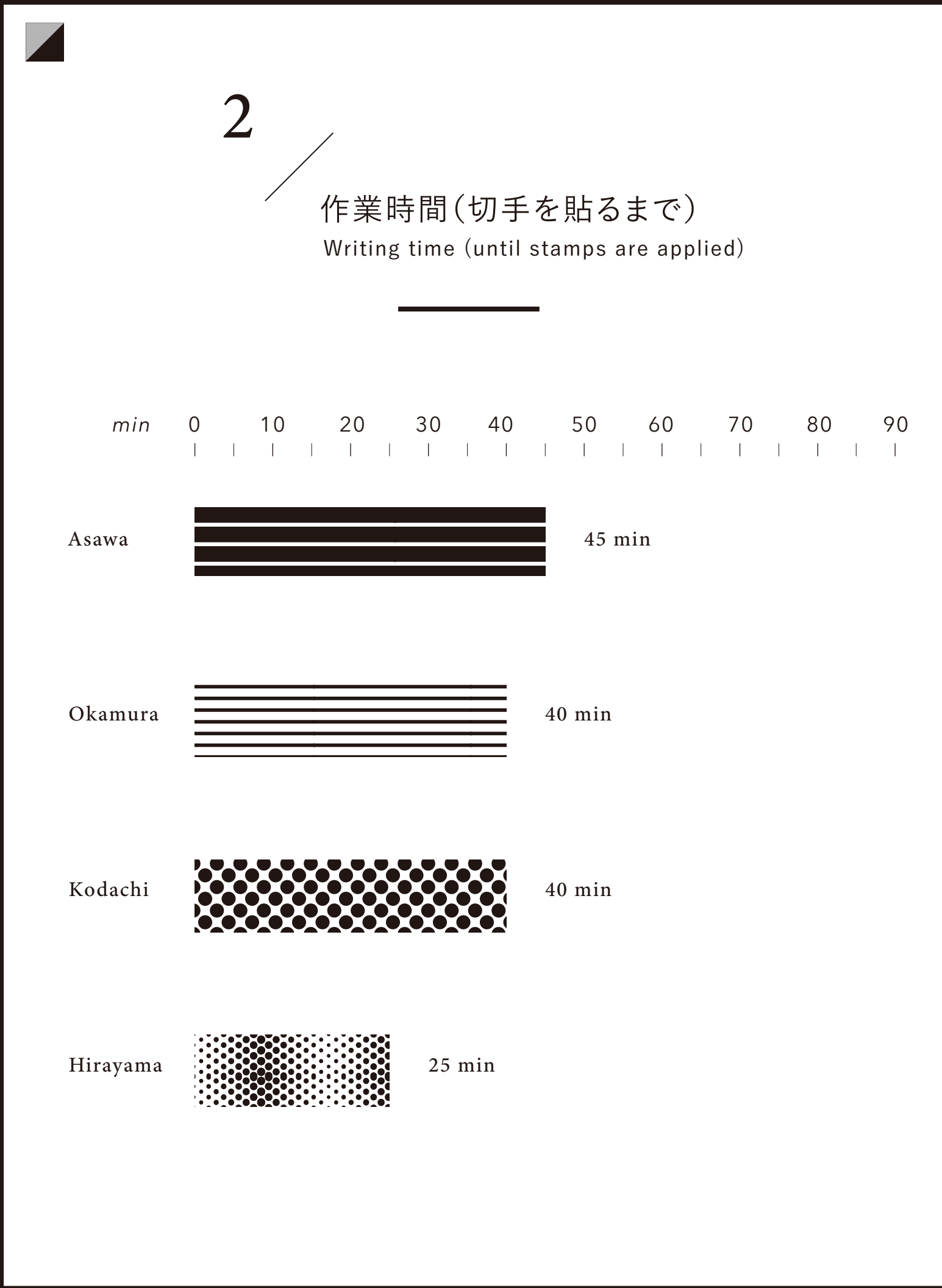
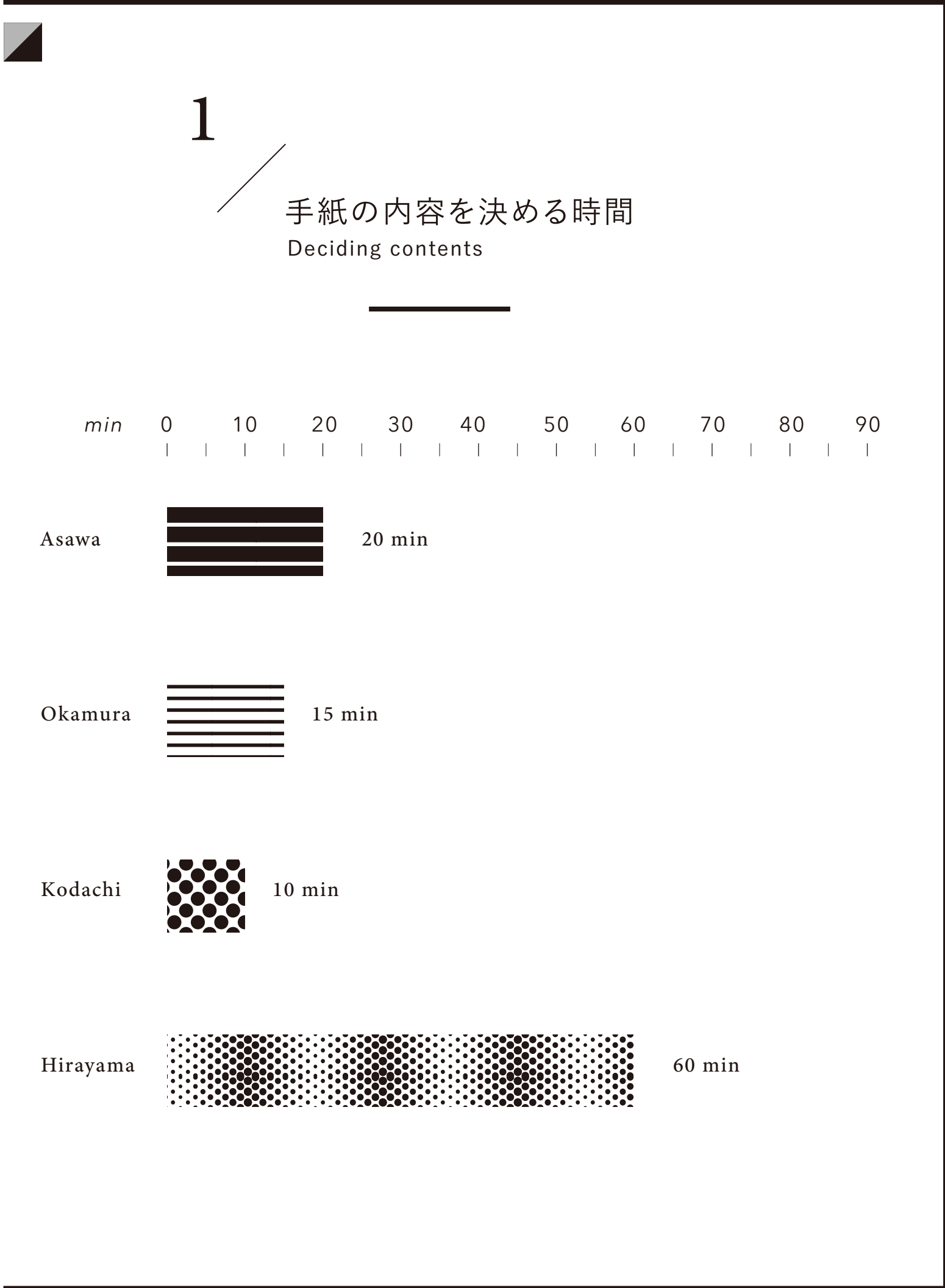
「手紙を書く」ということの印象

Before

・なんか手を動かしてみたい。わくわく。

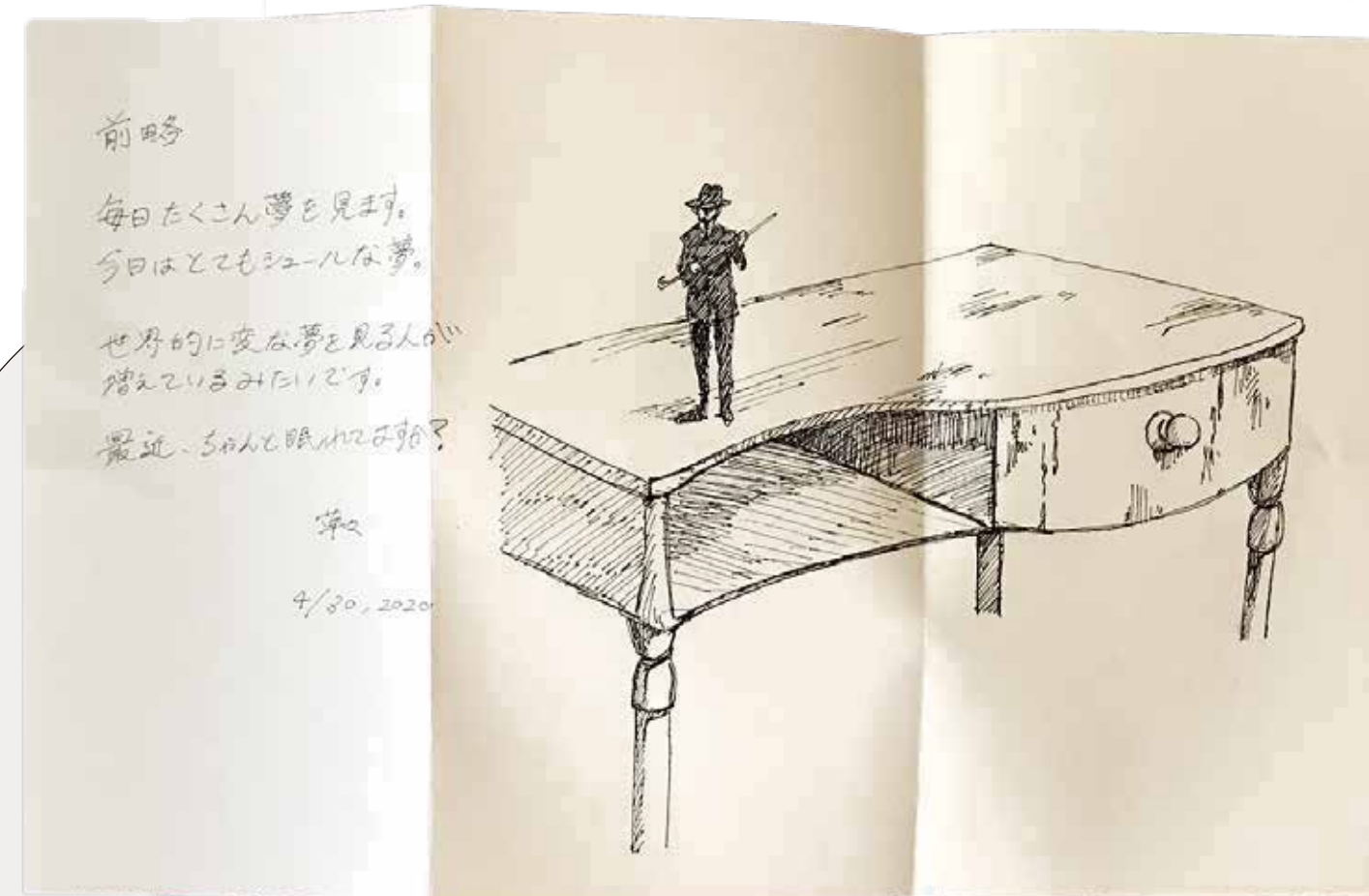
After

・思ったよりも書くことなかったなあ…
楽しんで貰えるだろうか…不安。

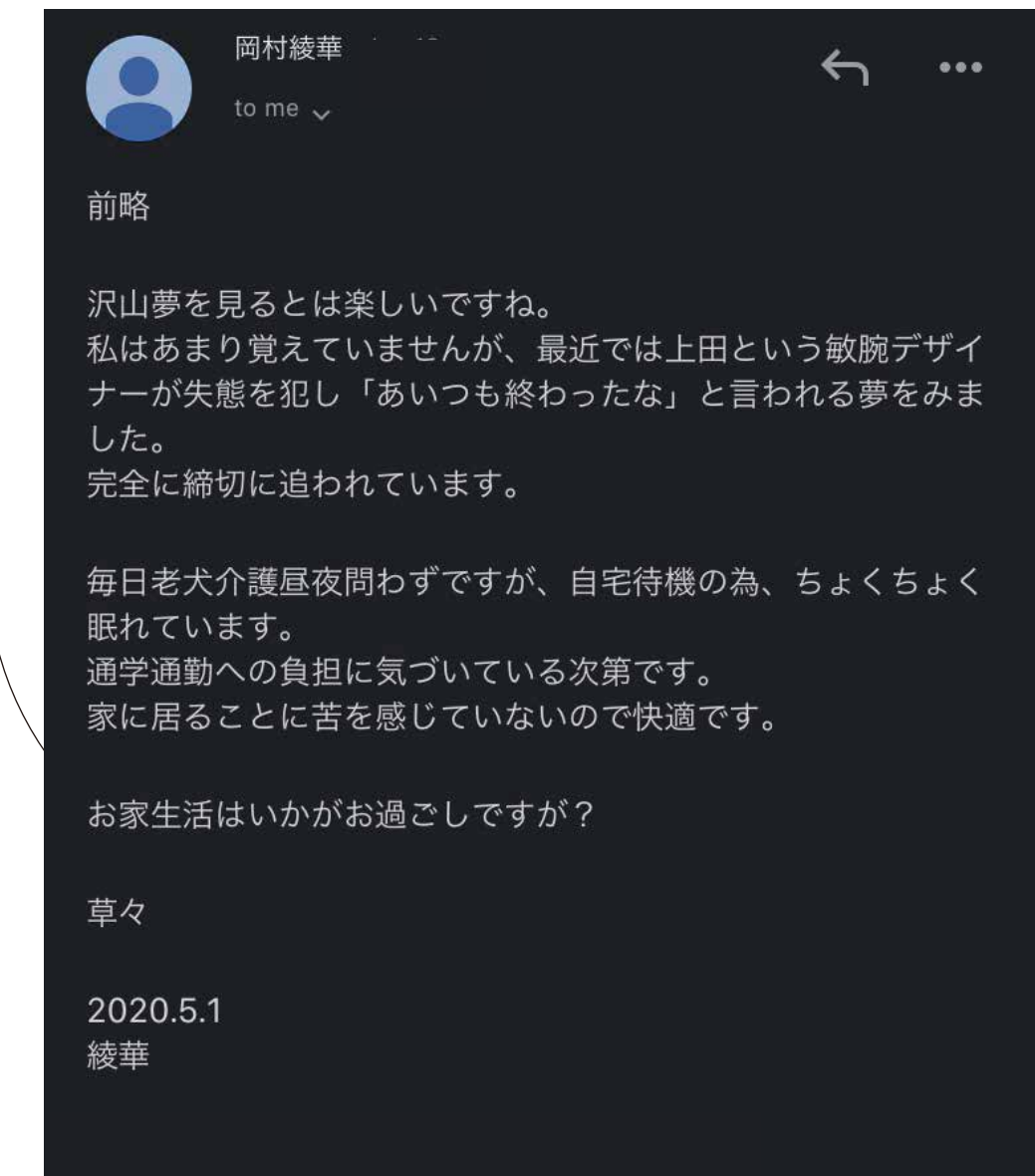
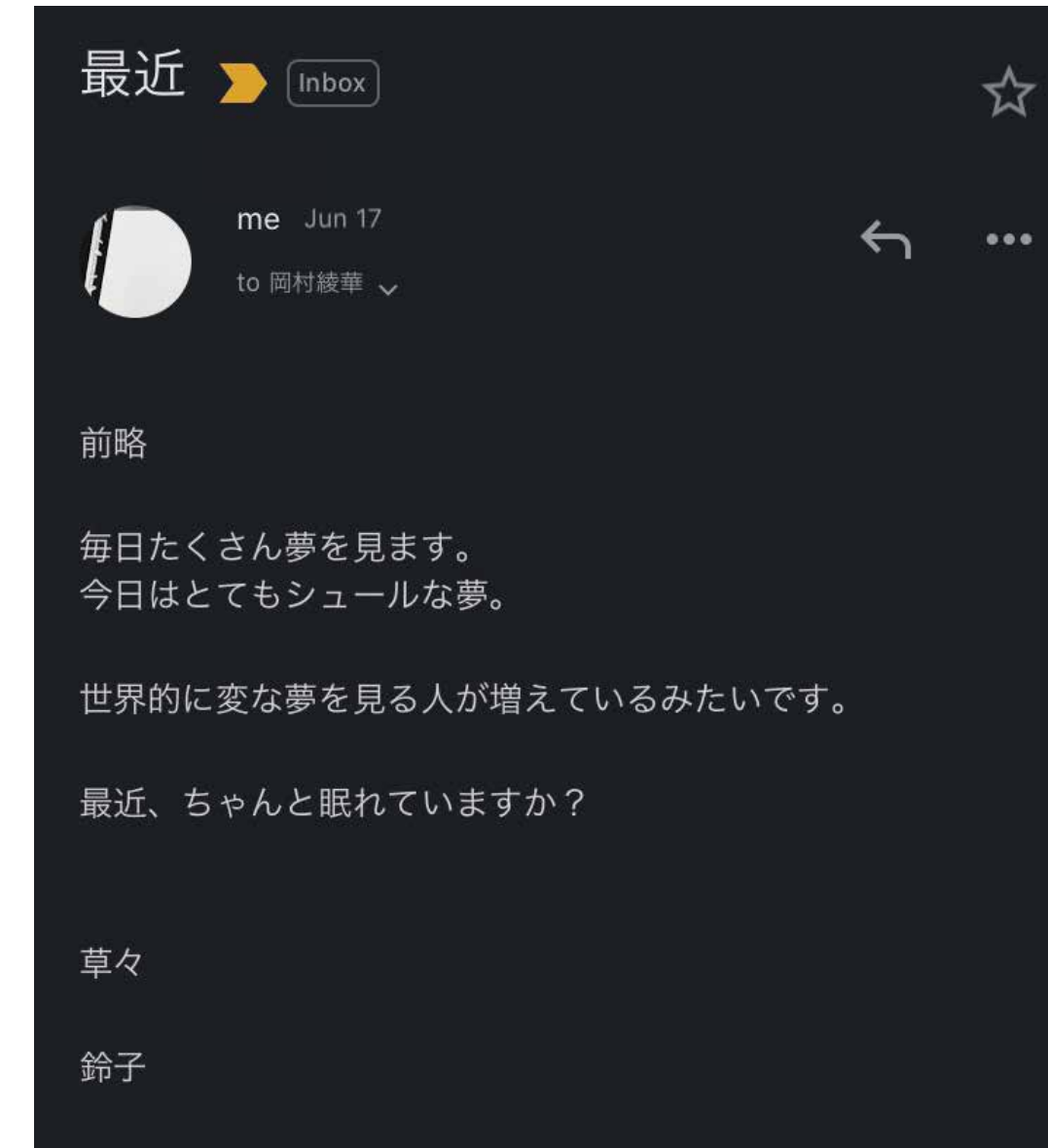
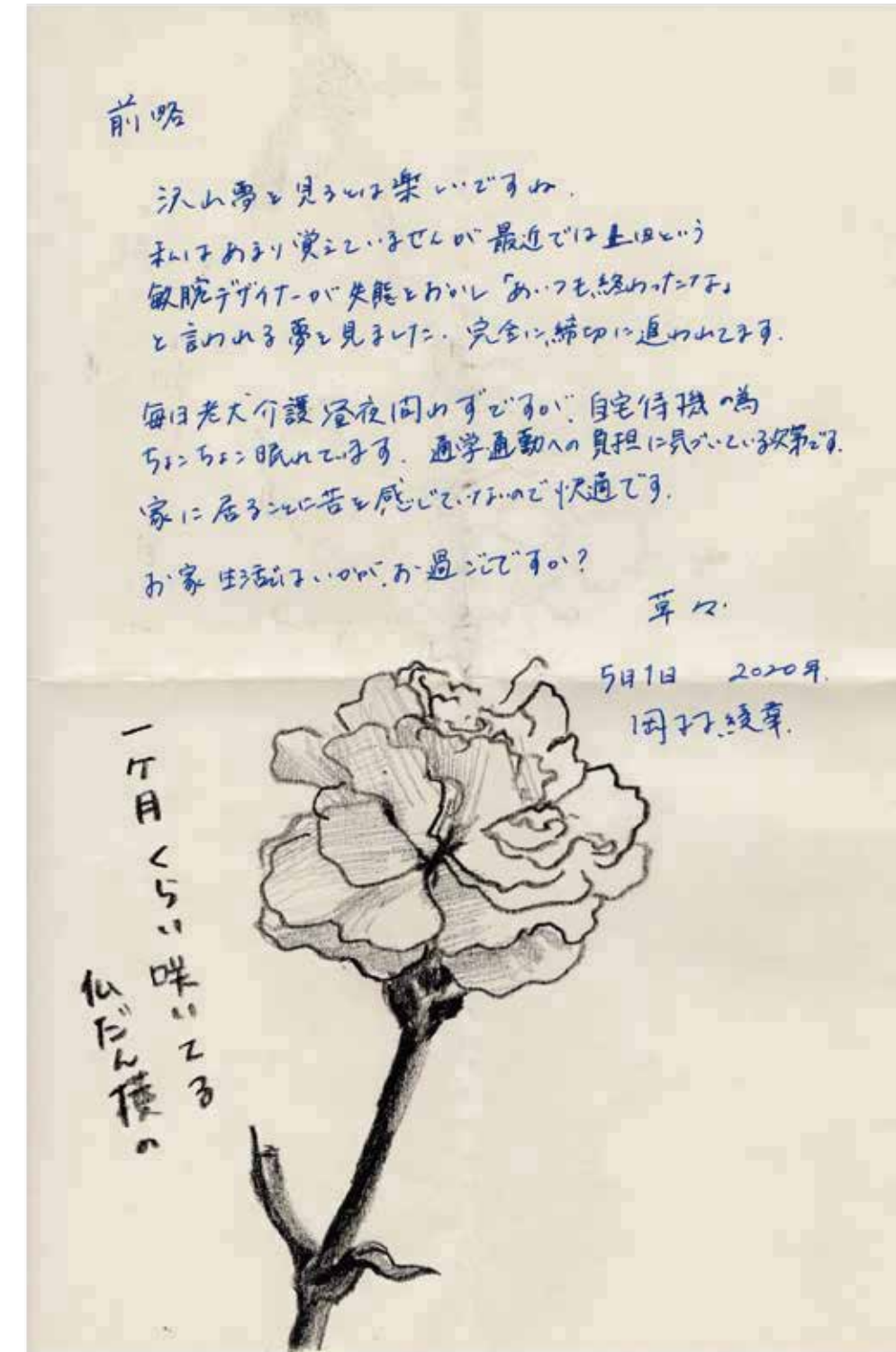


Comparison

Paper Letter and Desital Letter

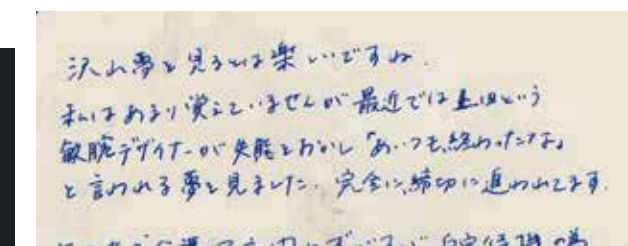


消し後、書き直し、折り目から、読み手は様々なことを感じることができる。
相手の感情とそれを取り巻く情景。
そして手紙には、それらがインク染みや匂いとなり軌跡となって残る。



- ・味気ない
 - ・素っ気ない
 - ・ビジネスメールに埋もれそう
 - ・人間味を感じない
 - ・感情がわからない
- 相手の素性を読み取るには、デジタルの文字はあまりにも簡素過ぎる。

沢山夢を見るとは楽しいですね。
私はあまり覚えていませんが、最近では上田という敏腕デザイナーが失態を犯し「あいつも終わったな」と言われる夢をみました。
完全に締切に追われています。



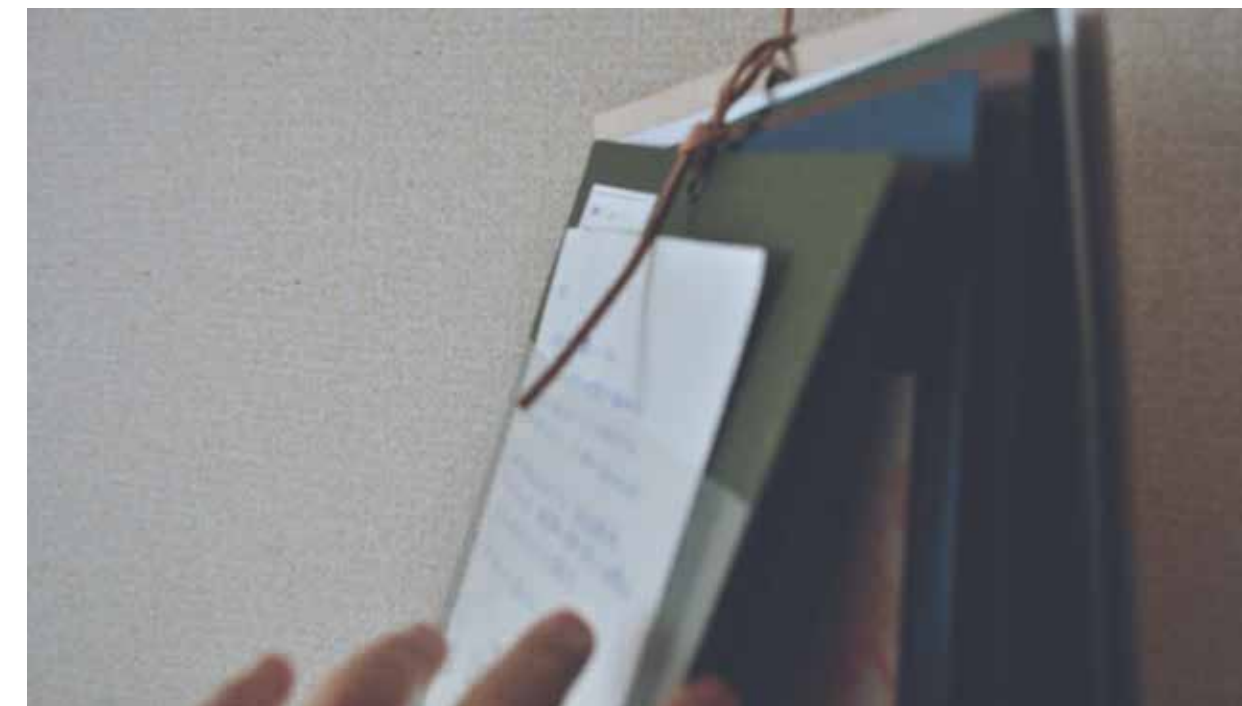
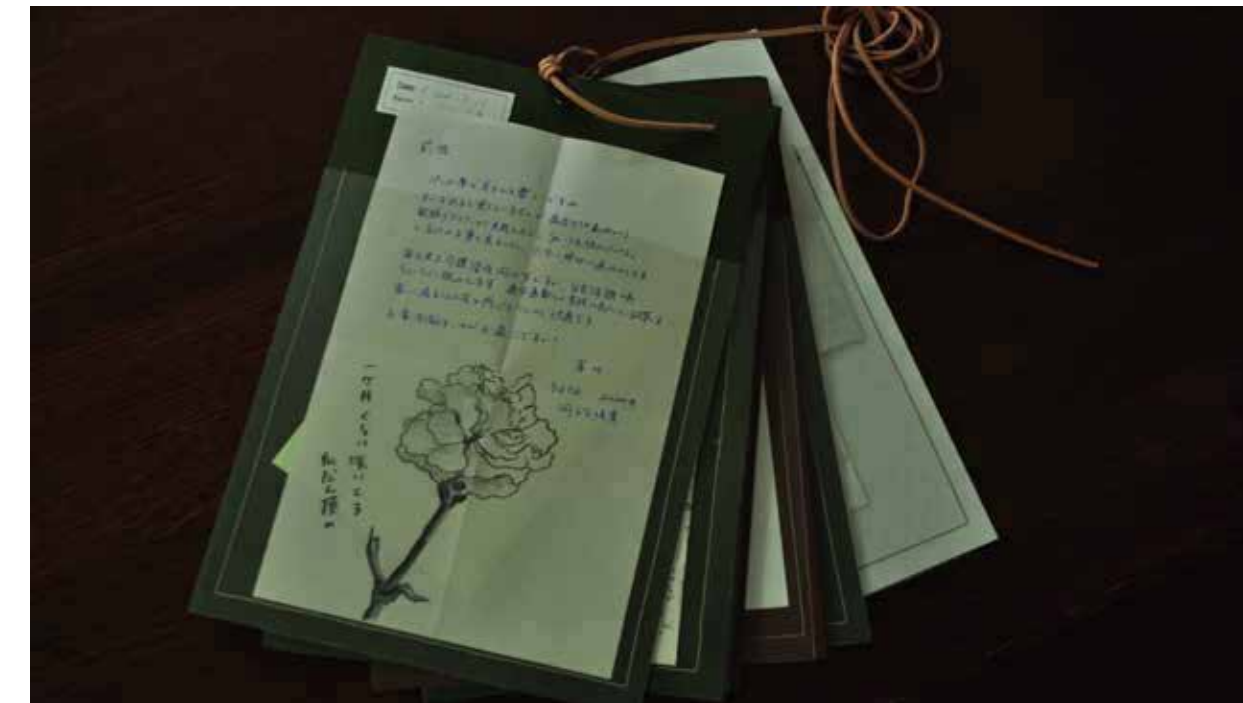
デジタルの文字に起こされていることで、没個性化している？
↓
手書き文字では、読み手は自然と相手の人間性や感情を読み取ることができる。

3. Future Value

文通という手法によって私たちが発見したことは？

Future Value

手紙の保管 FUTURE -->



5月から約2ヶ月に渡り文通を続けてきて私たちが思ったことは、「この時間を忘れてしまいたくない」ということだった。
コロナ禍が終息に向かえば、元の慌ただしい生活に戻り、ゆっくり時間をかけて手紙を認めたり、相手のことを想う余裕もなくなってしまう。文通と共に過ごしてきた日々とその価値は、私たちの中でとても大きいものになっていた。

そうして私たちは最後に、手紙の保存方法を工夫することを試みた。
なによりも手紙はデジタルのメールとは違い、物体として存在している。写真のようにスクラップし、装丁を整えることで、自分の為に書かれた大切な手紙とその思い出を、いつでも想起することができる。

手紙の価値はそれ単体には存在せず、手紙を受けとる過程から受け取った後までを含めた全ての時間軸に存在する。私たちが「今」の気持ちを忘れない為に「未来」へ向けてこの手紙を保管することで、文通一連の行為・情景をまるでタイムカプセルのように思い出することができる。

CONCLUSION

絵手紙文通から発見したこと

：微細なコミュニケーション

手紙の筆跡、絵柄、紙の折れ目から書き手の人柄やそれを取り巻く執筆空間の情景を汲み取り想像することができる。

：1対1の対話

手紙から捉えることのできる情報が多いからこそ、相手に対するイメージが自ずと豊富になり、心理的に直ぐ傍に相手がいるという様な感覚になる。

：アナログ作業から生まれる価値

文通には、主観的な省察や観察を手紙という形でアウトプットし、想いを巡らせるという、人間的やりとりが生まれてくる。テクノロジーで補いきれないこの文化的価値がアナログの手紙という手法でわかる。

：時間と手間を要することの良さ

送受信に時間がかかるという前提が、返事を長時間でも待てる余裕に繋がっている。文通には、相手を想いながら、便箋や切手を一つ一つ準備して書くという行為作業が内包されている。封筒を投函する手間を含めた一連の文通行為、そこに楽しみを見出すことができる。

文通の価値

SNS・文通、互いの特性を例えるならば、
SNS=ファストフード
文通=手料理
と言える。

現代に生きる私たちは、自炊せずとも出来合いの惣菜やファストフードで日々の生活を送ることが出来るが、そんな中でたまに触れる手料理の、なんとも言えぬ人間味に感動することはないだろうか？
文通の良さとは、この手料理と共通するものがある。

自粛中の絵手紙文通は、私たちの新たなコミュニケーションの一つとなった。私たちは、それぞれの生活についてや相手への返事を、文字と絵の両方によって豊かに表現した。これは相手を慮った人間味に溢れるコミュニケーションであった。それこそが私たちの探究してきた「コミュニケーションの空間における人との関わり合い方」の一つであり、価値である。

Dear.

デザイナーの視点から今、このコロナ禍に何が出来るのだろうか？
それは、日々いつの間にか薄れていってしまっている、人同士の誠実なコミュニケーションを、絵手紙文通という手法を通して思い出し、記録し、その価値を伝えることだ。

SNSの発展は、相手の目を見て意味を汲み取り、親身になってレスポンスをする、本来のコミュニケーションのあり方を希薄にしまった側面がある。
コロナ禍で人同士の直接的繋がりが弱くなる今、私たちは常に一生懸命にメールで連絡を取り合う必要も、インターネットで個人を発信し続ける必要もないのかもしれない。

それよりも、自分が今過ごしている時間をじっくりと見つめ、もっと身近にいるがなかなか連絡を取れない家族や友人と考えを丁寧に伝え合い、真摯受け止める行為と、それを味わえる余裕のある時間を持つことが、この先の豊かな自身の時間を過ごすこと、そして人との篤厚な関係性を築くための重要な要素となるのではないだろうか。

コロナ禍という特異な状況下だからこそ、今一度人との繋がり方とはなんなのかを考え、文通の様な、人間的時間の中で営まれる、豊かな人との関わり方を忘れずにいたい。